



彩の国さいたま

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第194集

鴻 巣 市

新 屋 敷 遺 跡 □ 区

大蔵省鴻巣宿舍建設工事関係
埋蔵文化財発掘調査報告
〈第1分冊〉

1 9 9 8

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



新屋敷遺跡D区全景（北西から）



第60号墳遺物出土状況



先土器時代の石器群



尖頭器



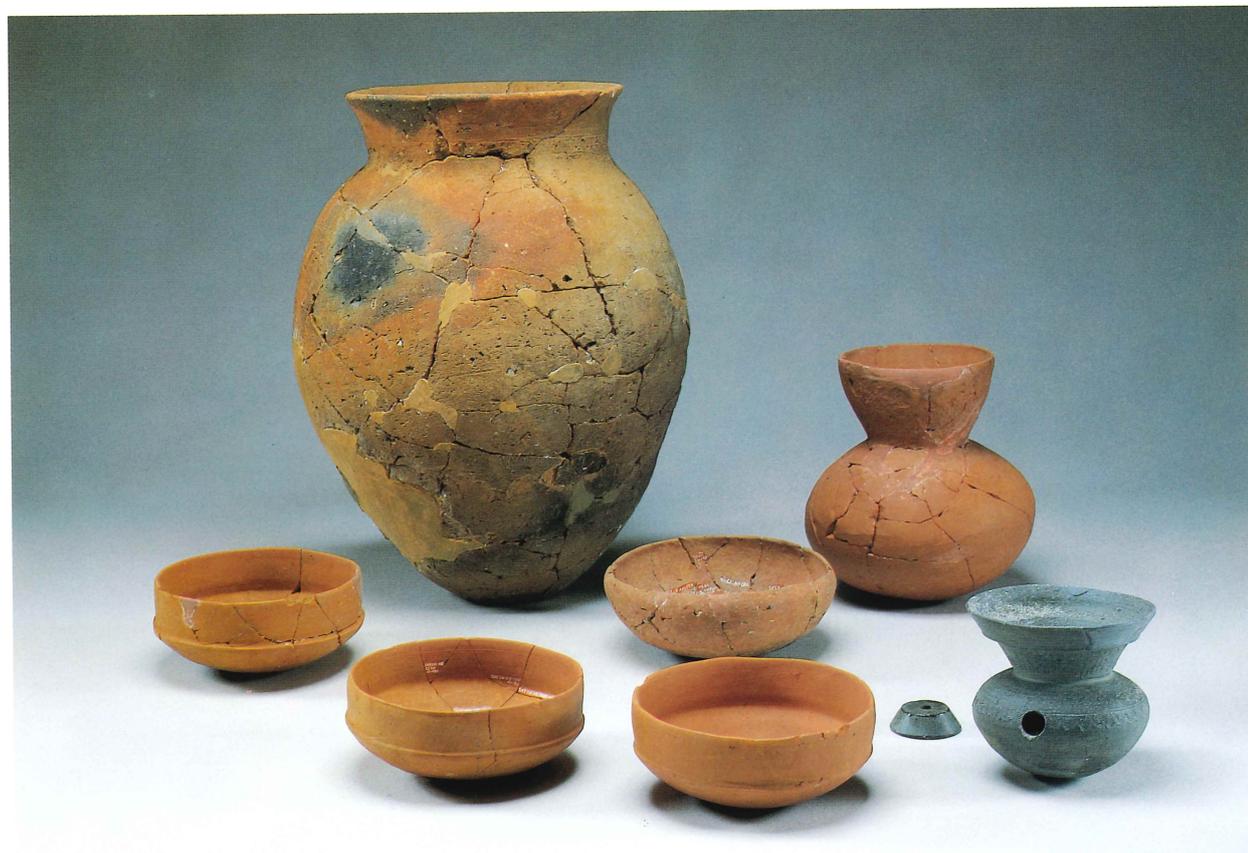
第43号墳出土遺物



第58号墳出土遺物



第60号墳出土遺物



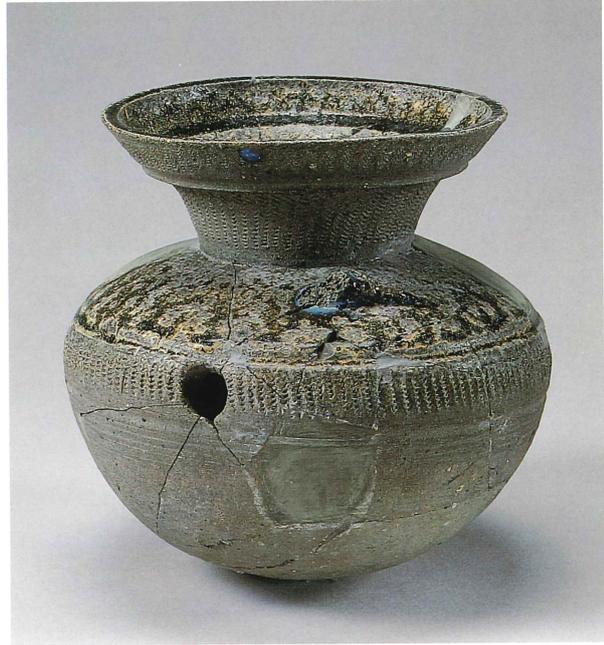
第63号墳出土遺物



第60号墳出土埴輪



須恵器高坏 (第60号墳)



須恵器甗 (第60号墳)



線刻画紡錘車 (第58号墳)



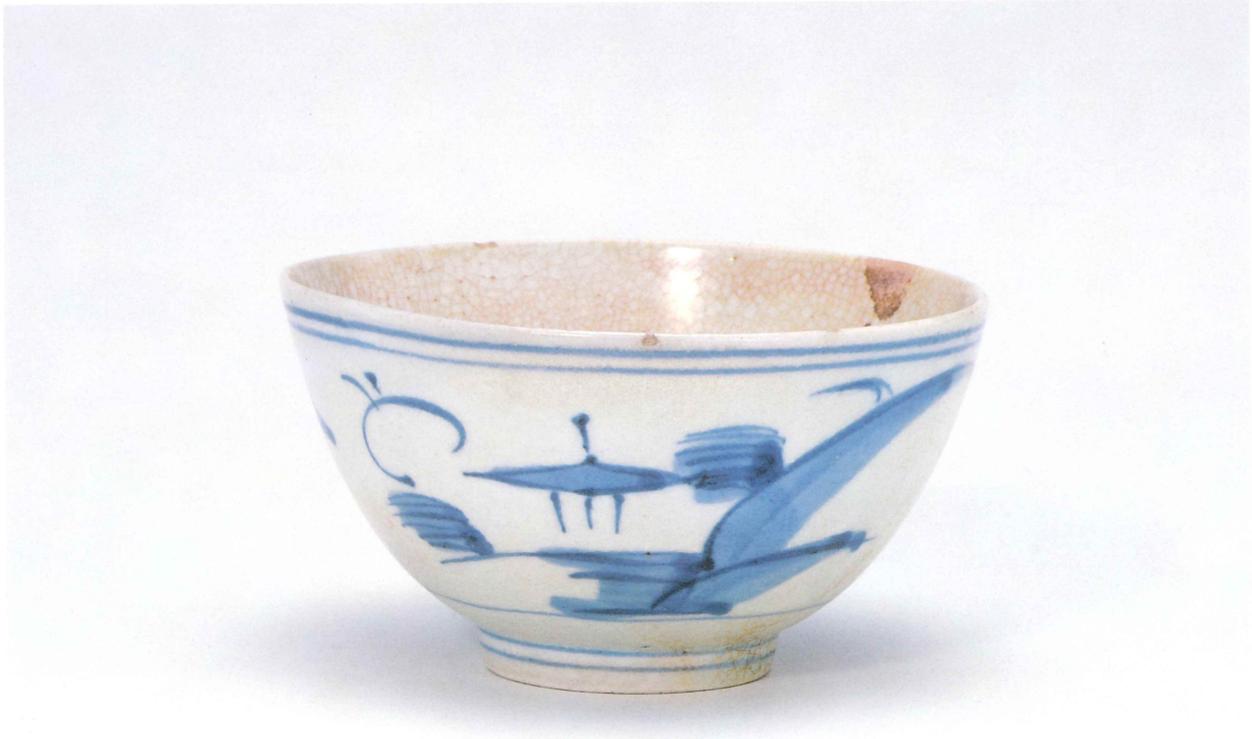
展開写真



第79号住居跡遺物出土状況



第79号住居跡カマド遺物出土状況



肥前系碗（第67号井戸）



「有」刻字紡錘車（第904号土壙）

序

雛人形と花の町として知られる鴻巣市は、近年の都市化により宅地化が進んでおります。

鴻巣市東四丁目の農事試験場跡地につきましては、既に埼玉県、埼玉県住宅供給公社などによって公共施設や住宅として活用されてきました。大蔵省でも、この地に国家公務員の住宅環境整備の一環として鴻巣住宅を建設することになりました。

建設予定地内は、既に埋蔵文化財の包蔵地であることが知られておりましたが、その取り扱いについて、関係機関が慎重に協議を重ねた結果、記録保存の措置を講ずることになり、埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施することになりました。

鴻巣市には、大規模な埴輪生産遺跡である生出塚埴輪窯跡があります。また、国指定史跡埼玉古墳群も隣接し、古墳との関わりが深い地域であります。

江戸時代においては将軍の日光参拝、鷹狩りの宿泊休憩に使用された鴻巣御殿が所在した地として知られています。

調査の対象である新屋敷遺跡は、これまでに多くの調査が実施され、旧石器時代から江戸時代までの遺構・遺物が多数検出されておりますが、本報告は農事試験場跡地に関連する調査報告書の最終となるものであります。

特に今回の調査では、古墳跡が25基発見され、総数77基にもなりました。古墳群の中心的な古墳として前方後円墳が一基発見され、埼玉古墳群の築かれはじめ頃の土器や埴輪類が出土しました。この古墳群と埼

玉古墳群との関係を考える上で重要な資料となるものであります。

平安時代の集落から出土した陶器類は、東海地方で焼かれたものがあり、予想以上広い範囲に流通していたことを窺わせます。

江戸時代では、建物跡とそれを囲む溝跡・堀跡・井戸跡などが多数発見されました。また、この地の小字名が「新屋敷」と名付けられていることから、周辺に推定されている鴻巣御殿や新編武蔵風土記稿にみえる「鷹部屋」との関連が興味をひかれるところであります。

これらの成果をまとめたものが本書であります。本書が埋蔵文化財保護の基礎資料として、また、学術研究や教育・普及の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで、御協力をいただきました大蔵省関東財務局浦和財務事務所、鴻巣市教育委員会、並びに地元関係者各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井 桂

例言

- 1 本書は埼玉県鴻巣市に所在する、新屋敷遺跡に関する発掘調査報告書である。遺跡の代表番地と、発掘調査に対する文化庁指示通知は以下の通りである。
新屋敷遺跡D区（略号SNYSK）
鴻巣市東4丁目384番地12他
平成5年6月29日付け委保第5の641号
平成6年4月27日付け文教第2の20号
- 2 発掘調査は大蔵省合同宿舍鴻巣住宅の造成に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整を経て、大蔵省関東財務局の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 3 発掘調査は平成6年4月1日～平成7年9月30日まで行い、平成5年度が³14,000m²、平成6年度が³8,000m²、合計22,000m²について実施した。
- 4 発掘調査の担当は以下の通りである。
平成6年度
昼間孝志、田中正夫、熊沢孝之
平成7年度
昼間孝志、西口正純、田中正夫
- 5 報告書作成事業は平成8年度～9年度に受託し、平成8年9月1日～平成9年3月31日までを昼間、平成9年4月1日～平成10年3月31日までを昼間、大谷徹が担当し、実施した。
- 6 なお、発掘調査と整理事業の組織は3頁に示した通りである。
- 7 出土品の整理及び実測、作図、作表、写真撮影は昼間と大谷が主に行い、先土器時代については西井幸雄、縄文時代については上野真由美が行った。
- 8 遺跡の基準点測量と航空写真は株式会社パスコに、巻頭カラー写真の一部は小川忠博に、出土遺物の胎土分析は第四紀地質研究所に、漆器類は漆器文化財科学研究所にそれぞれ委託した。
- 9 本書の執筆は主に昼間、大谷が行い、文責は以下の通りである。
I-1 埼玉県生涯学習部文化財保護課
I-2・3、II、IX-1・2、X-1～4、6～9、
XI-1・2(1)・(2) 昼間
III、VI、VII、VIII-3 大谷
IV、VIII-1 西井
V 上野
VIII-2 田中正夫
IX-3、X-5、XI-2(3) 佐々木健策
- 10 本書の編集は、当事業団資料部長、同副部長の監修のもとに、資料部資料整理第一課の昼間、大谷が行った。
- 11 本書に掲載した資料は、平成10年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管している。
- 12 本書を作成するにあたり、下記の方々よりご教示、御協力を賜った。(敬称略 五十音順)
赤井博之 江原昌俊 太田博之 大塚孝司
岡田賢治 小倉 均 亀田浩子 久能正博
栗原文蔵 車崎正彦 郷堀英司 小林博範
小林 裕 齊藤 進 坂本和俊 桜岡正信
佐野五十三 渋谷正彦 白井哲哉 新宅輝久
杉山晋作 鈴木裕子 竹花宏之 塚田良道
鳥羽政之 贄 元洋 松崎慶喜 山形洋一
山崎 武 渡辺 一
鴻巣市教育委員会 古代生産史研究会
埴輪研究会

凡例

- 1 本書の遺跡全体図におけるX・Yの座標数値は国土標準平面直角座標第IX系に基づく座標値を示している。また、各遺構図における方位指示は、すべて座標北を示している。
 - 2 本遺跡におけるグリッドの呼称は、南西杭が基準である。南から北へ向かってA～Z、AA、AB、AC…、西から東へ向かって1～34…となる。また、グリッドはA～D区まで共通で、新屋敷遺跡全体を覆うようにグリッドを設定している。
 - 3 グリッドは10mを大グリッドとして設定し、大グリッドに2mの小グリッドを25設定した。遺構の位置等のグリッドの表記は、大グリッドを基準としている。
 - 4 本書における挿図内の遺構の表現は、便宜上、下記の記号で表記した。
- 5 遺構番号は、原則として調査時に付した番号をそのまま使用したが、一部変更したものがあ
- 6 遺構図及び実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構図

- 先土器時代遺物分布図…1/40
住居跡…1/60
掘立柱建物跡・土壇・井戸…1/80
柵列・ピット群…1/200
遺物微細図…1/40
古墳…1/160

遺物

- 先土器時代石器…4/5
縄文時代の土器・石器…1/3
土師器・須恵器・陶磁器…1/4
円筒埴輪・形象埴輪…1/5・1/4
鉄製品…1/2
石・土製品…1/3
- 7 遺構断面図における水平数値は海拔高度を示しており、単位はmである。
- 8 住居跡の遺構図における網掛部分は焼土の範囲を表しており、●印のドットは遺物を示している。
- 9 古墳時代の土師器実測図における網掛部分は赤色塗彩が行われている範囲を表している。
- 10 古墳時代・平安時代の須恵器は、断面を黒く塗り、灰釉陶器は断面を網掛けした。
- 11 遺物観察表の記載は次の通りである。
- 法量の()付き数値は推定値を表し、単位はcmである。
- 胎土は肉眼で観察される範囲の混入物を記載した。
- A…石英、B…白色粒子、C…白色針状物質、D…長石、E…角閃石、F…赤色粒子、G…黒色粒子、H…雲母、I…片岩、J…砂粒である。
- 焼成Aは良好、B普通、C不良の3ランクに分けた。残存率は各部位に対するおおよその数値で、厳密なものではない。
- 12 本書に掲載した地形図は、建設省国土管理院発行の1/50000の地形図を使用した。
- 13 本書に使用した参考・引用文献は、(著者 発行年)で表記し、巻末にその一覧を記載した。

目次

| | | |
|-----------------------------|--------|---------------------------|
| 口絵 | | 2. 古墳群における供献の様相 ……………225 |
| 序 | | 3. 新屋敷古墳群の様相 ……………231 |
| 例言 | | 附編 古墳時代出土遺物の胎土分析 ……………261 |
| 凡例 | | |
| 目次 | | |
| | | 〈第2分冊〉 |
| | 〈第1分冊〉 | |
| I 調査の概要 | | IX 平安時代の調査 |
| 1. 調査に至る経過 …………… 1 | | 1. 調査の概要 ……………281 |
| 2. 発掘調査・報告書作成の経過………… 2 | | 2. 住居跡 ……………283 |
| 3. 発掘調査、整理・報告書刊行の組織 …………… 3 | | 3. 井戸 ……………444 |
| II 遺跡の立地と環境 …………… 4 | | X 中・近世の調査 |
| III 遺跡の概要 …………… 11 | | 1. 調査の概要 ……………447 |
| IV 先土器時代の調査 | | 2. 掘立柱建物跡 ……………449 |
| 1. 調査の概要 …………… 15 | | 3. 柵列跡 ……………473 |
| 2. 層位 …………… 15 | | 4. 井戸 ……………486 |
| 3. 石器集中 …………… 18 | | 5. 溝…………507 |
| 4. 出土石器 …………… 21 | | 6. ピット群 ……………519 |
| 5. 器種別分布 …………… 30 | | 7. 不明遺構 ……………521 |
| 6. 礫群………… 33 | | 8. 土壇…………523 |
| 先土器時代石器観察表 …………… 39 | | 9. グリッド ……………579 |
| V 縄文時代の調査 | | 新旧対照表 ……………587 |
| 1. 調査の概要 …………… 53 | | XI 調査の成果と課題II |
| 2. 住居跡 …………… 53 | | 1. 平安時代の出土土器について |
| 3. 土壇………… 57 | | (1) 出土土器の年代 ……………591 |
| 4. グリッド …………… 61 | | (2) 酸火焼成の土器群 ……………595 |
| VI 古墳時代前期の調査 | | 2. 新屋敷遺跡の性格について |
| 1. 調査の概要 …………… 69 | | (1) 江戸時代以前の新屋敷遺跡 ……………600 |
| 2. 住居跡 …………… 69 | | (2) 江戸時代の新屋敷遺跡 ……………601 |
| VII 古墳時代後期の調査 | | (3) 出土遺物の産地と特徴 ……………605 |
| 1. 調査の概要 …………… 73 | | 附編 |
| 2. 古墳跡 …………… 73 | | 1. 平安時代出土遺物の胎土分析 ……………609 |
| 3. グリッド ……………211 | | 2. 近世漆器の塗膜分析 ……………619 |
| 埴輪観察表凡例及び計測表 ……………214 | | |
| VIII 調査の成果と課題 I | | 〈第3分冊〉 |
| 1. 先土器時代のまとめと成果 ……………219 | | 写真図版 |

挿 図 目 次

| | | | | | |
|------|--------------------|----|------|-----------------------|----|
| 第1図 | 埼玉県の地形図 | 4 | 第36図 | グリッド出土土器(3) | 64 |
| 第2図 | 先土器～古墳時代の遺跡分布図 | 5 | 第37図 | グリッド出土土器(4) | 66 |
| 第3図 | 奈良・平安時代以降の遺跡等分布図 | 8 | 第38図 | グリッド出土石器 | 67 |
| 第4図 | 新屋敷遺跡の調査沿革図 | 10 | 第39図 | 古墳時代前期の遺構配置図 | 70 |
| 第5図 | 遺跡周辺の地形図 | 12 | 第40図 | 第101号住居跡 | 71 |
| 第6図 | 新屋敷遺跡全体グリッド配置図 | 13 | 第41図 | 第101号住居跡遺物分布図・出土遺物 | 72 |
| 第7図 | 新屋敷遺跡D区全体図 | 14 | 第42図 | 古墳時代後期の遺構配置図 | 74 |
| 第8図 | 先土器時代調査区及び石器・礫分布図 | 16 | 第43図 | 第43号墳 | 75 |
| 第9図 | 石器集中7 | 18 | 第44図 | 第43号墳周溝土層断面図 | 76 |
| 第10図 | 石器集中8 | 19 | 第45図 | 第43号墳遺物出土状況図(1) | 76 |
| 第11図 | 石器集中9 | 20 | 第46図 | 第43号墳遺物分布全体図 | 77 |
| 第12図 | 石器実測図(1) | 22 | 第47図 | 第43号墳遺物出土状況図(2) | 78 |
| 第13図 | 石器実測図(2) | 23 | 第48図 | 第43号墳遺物分布図 | 79 |
| 第14図 | 石器実測図(3) | 24 | 第49図 | 第43号墳出土遺物 | 80 |
| 第15図 | 石器実測図(4) | 25 | 第50図 | 第43号墳埴輪分布図 | 81 |
| 第16図 | 石器実測図(5) | 26 | 第51図 | 第43号墳円筒埴輪(1) | 82 |
| 第17図 | 石器実測図(6) | 27 | 第52図 | 第43号墳円筒埴輪(2) | 83 |
| 第18図 | 石器実測図(7) | 28 | 第53図 | 第43号墳朝顔形埴輪 | 84 |
| 第19図 | 石器実測図(8) | 29 | 第54図 | 第43号墳埴輪ハケ拓影 | 84 |
| 第20図 | 器種別分布図(1) | 31 | 第55図 | 第46号墳・出土遺物 | 85 |
| 第21図 | 器種別分布図(2) | 32 | 第56図 | 第46号墳遺物分布図 | 86 |
| 第22図 | 礫群11 | 33 | 第57図 | 第55号墳・出土遺物 | 88 |
| 第23図 | 礫群12 | 34 | 第58図 | 第55号墳遺物分布図 | 89 |
| 第24図 | 礫群13 | 35 | 第59図 | 第56号墳・出土遺物 | 90 |
| 第25図 | 礫群14 | 36 | 第60図 | 第56号墳遺物分布図 | 91 |
| 第26図 | 礫群15・16・17 | 37 | 第61図 | 第57号墳・出土遺物 | 91 |
| 第27図 | 礫接合図 | 38 | 第62図 | 第57号墳遺物出土状況図 | 92 |
| 第28図 | 縄文時代の遺構分布図 | 54 | 第63図 | 第58号墳 | 93 |
| 第29図 | 第121号住居跡 | 55 | 第64図 | 第58号墳周溝土層断面図 | 94 |
| 第30図 | 第121号住居跡遺物分布図・出土遺物 | 56 | 第65図 | 第58号墳遺物分布全体図・出土状況図(1) | 95 |
| 第31図 | 土壙(1) | 58 | 第66図 | 第58号墳遺物出土状況図(2) | 96 |
| 第32図 | 土壙(2) | 59 | 第67図 | 第58号墳遺物分布図 | 97 |
| 第33図 | 第420号土壙遺物分布図・出土遺物 | 60 | 第68図 | 第58号墳出土遺物(1) | 98 |
| 第34図 | グリッド出土土器(1) | 62 | 第69図 | 第58号墳出土遺物(2) | 99 |
| 第35図 | グリッド出土土器(2) | 63 | 第70図 | 第58号墳埴輪ハケ拓影 | 99 |

| | | | | | |
|-------|-----------------|-----|-------|-------------------|-----|
| 第71図 | 第58号墳円筒埴輪(1) | 100 | 第108図 | 第60号墳円筒埴輪(7) | 137 |
| 第72図 | 第58号墳円筒埴輪(2) | 101 | 第109図 | 第60号墳円筒埴輪(8) | 138 |
| 第73図 | 第58号墳形象埴輪 | 102 | 第110図 | 第60号墳円筒埴輪(9) | 139 |
| 第74図 | 第59号墳 | 103 | 第111図 | 第60号墳円筒埴輪(10) | 140 |
| 第75図 | 第59号墳遺物分布図 | 104 | 第112図 | 第60号墳埴輪ハケ拓影(1) | 141 |
| 第76図 | 第59号墳出土遺物 | 104 | 第113図 | 第60号墳埴輪ハケ拓影(2) | 142 |
| 第77図 | 第60号墳 | 106 | 第114図 | 第60号墳朝顔形埴輪(1) | 143 |
| 第78図 | 第60号墳断面図 | 107 | 第115図 | 第60号墳朝顔形埴輪(2) | 144 |
| 第79図 | 第60号墳周溝土層断面図(1) | 108 | 第116図 | 第60号墳円筒埴輪拓影図(1) | 145 |
| 第80図 | 第60号墳周溝土層断面図(2) | 109 | 第117図 | 第60号墳円筒埴輪拓影図(2) | 146 |
| 第81図 | 第60号墳測量図 | 110 | 第118図 | 第60号墳ヘラ記号分布図 | 147 |
| 第82図 | 第60号墳遺物分布図 | 111 | 第119図 | 第60号墳形象埴輪分布全体図 | 151 |
| 第83図 | 第60号墳出土状況図配置図 | 112 | 第120図 | 第60号墳形象埴輪分布拡大図(1) | 152 |
| 第84図 | 第60号墳遺物出土状況図(1) | 113 | 第121図 | 第60号墳形象埴輪分布拡大図(2) | 153 |
| 第85図 | 第60号墳遺物出土状況図(2) | 114 | 第122図 | 第60号墳形象埴輪分布拡大図(3) | 154 |
| 第86図 | 第60号墳遺物出土状況図(3) | 115 | 第123図 | 第60号墳形象埴輪(1) | 156 |
| 第87図 | 第60号墳遺物出土状況図(4) | 116 | 第124図 | 第60号墳形象埴輪(2) | 157 |
| 第88図 | 第60号墳遺物出土状況図(5) | 117 | 第125図 | 第60号墳形象埴輪(3) | 158 |
| 第89図 | 第60号墳遺物出土状況図(6) | 118 | 第126図 | 第60号墳形象埴輪(4) | 159 |
| 第90図 | 第60号墳遺物出土状況図(7) | 119 | 第127図 | 第60号墳形象埴輪(5) | 160 |
| 第91図 | 第60号墳遺物出土状況図(8) | 120 | 第128図 | 第60号墳形象埴輪(6) | 161 |
| 第92図 | 第60号墳遺物出土状況図(9) | 121 | 第129図 | 第60号墳形象埴輪(7) | 162 |
| 第93図 | 第60号墳出土遺物(1) | 122 | 第130図 | 第60号墳形象埴輪(8) | 164 |
| 第94図 | 第60号墳出土遺物(2) | 123 | 第131図 | 第61号墳・出土遺物(1) | 167 |
| 第95図 | 第60号墳出土遺物(3) | 124 | 第132図 | 第61号墳出土遺物(2) | 168 |
| 第96図 | 第60号墳出土遺物(4) | 125 | 第133図 | 第61号墳埴輪ハケ拓影 | 168 |
| 第97図 | 第60号墳出土鈴鏡 | 126 | 第134図 | 第61号墳遺物分布図・出土状況図 | 169 |
| 第98図 | 第60号墳出土鉄製品 | 126 | 第135図 | 第61号墳出土埴輪 | 170 |
| 第99図 | 第60号墳出土紡錘車 | 127 | 第136図 | 第62号墳・出土遺物 | 171 |
| 第100図 | 第60号墳埴輪分布密度図 | 129 | 第137図 | 第63号墳 | 172 |
| 第101図 | 第60号墳埴輪分布図 | 130 | 第138図 | 第63号墳周溝土層断面図 | 173 |
| 第102図 | 第60号墳円筒埴輪(1) | 131 | 第139図 | 第63号墳遺物分布全体図 | 174 |
| 第103図 | 第60号墳円筒埴輪(2) | 132 | 第140図 | 第63号墳遺物出土状況図(1) | 175 |
| 第104図 | 第60号墳円筒埴輪(3) | 133 | 第141図 | 第63号墳遺物出土状況図(2) | 176 |
| 第105図 | 第60号墳円筒埴輪(4) | 134 | 第142図 | 第63号墳遺物出土状況図(3) | 177 |
| 第106図 | 第60号墳円筒埴輪(5) | 135 | 第143図 | 第63号墳遺物分布図 | 178 |
| 第107図 | 第60号墳円筒埴輪(6) | 136 | 第144図 | 第63号墳出土遺物 | 179 |

| | | | | | |
|-------|-------------------|-----|-------|-------------------|-----|
| 第145図 | 第63号墳埴輪分布図 | 180 | 第182図 | 埴輪各部の名称及び計測位置 | 214 |
| 第146図 | 第63号墳円筒埴輪(1) | 181 | 第183図 | D区各集中出土石器 | 220 |
| 第147図 | 第63号墳円筒埴輪(2) | 182 | 第184図 | C区各集中出土石器 | 221 |
| 第148図 | 第63号墳埴輪ハケ拓影 | 182 | 第185図 | 尖頭器出土分布図 | 223 |
| 第149図 | 第63号墳円筒埴輪拓影図 | 183 | 第186図 | 模倣坏出土位置概念図 | 227 |
| 第150図 | 第64号墳 | 185 | 第187図 | ブリッジと模倣坏出土位置の関係 | 229 |
| 第151図 | 第65号墳 | 186 | 第188図 | 墳丘規模及びブリッジ方位 | 231 |
| 第152図 | 第65号墳周溝土層断面図 | 187 | 第189図 | 新屋敷・生出塚遺跡概念図 | 232 |
| 第153図 | 第65号墳遺物分布図 | 188 | 第190図 | 新屋敷遺跡古墳分布図 | 236 |
| 第154図 | 第65号墳遺物出土状況図 | 189 | 第191図 | 古墳出土主要土器 | 238 |
| 第155図 | 第65号墳出土遺物 | 190 | 第192図 | 古墳出土土器編年図 | 240 |
| 第156図 | 第66号墳 | 191 | 第193図 | 第60号墳円筒埴輪分類図 | 242 |
| 第157図 | 第67号墳 | 192 | 第194図 | 円筒埴輪編年図 | 244 |
| 第158図 | 第68号墳・出土遺物 | 192 | 第195図 | ヘラ記号集成 | 248 |
| 第159図 | 第69号墳 | 193 | 第196図 | 銀杏葉文ヘラ記号集成 | 251 |
| 第160図 | 第70号墳 | 194 | 第197図 | 紡錘車集成 | 253 |
| 第161図 | 第70号墳遺物出土状況図・出土遺物 | 194 | 第198図 | 紡錘車出土古墳分布図 | 254 |
| 第162図 | 第71号墳・出土遺物 | 195 | 第199図 | 新屋敷60号墳と鑑塚古墳 | 258 |
| 第163図 | 第72号墳・出土遺物 | 196 | 第200図 | 時期別変遷図 | 259 |
| 第164図 | 第72号墳遺物出土状況図 | 197 | 第201図 | 平安時代の遺構配置図 | 282 |
| 第165図 | 第73号墳・出土遺物 | 198 | 第202図 | 第51号住居跡 | 284 |
| 第166図 | 第73号墳遺物出土状況図 | 199 | 第203図 | 第51号住居跡出土遺物 | 285 |
| 第167図 | 第74号墳 | 200 | 第204図 | 第52号住居跡 | 287 |
| 第168図 | 第74号墳周溝土層断面図 | 201 | 第205図 | 第52号住居跡出土遺物 | 287 |
| 第169図 | 第74号墳遺物出土状況図・出土遺物 | 201 | 第206図 | 第53号住居跡出土遺物(2) | 288 |
| 第170図 | 第74号墳遺物分布図 | 202 | 第207図 | 第53号住居跡・カマド・遺物分布図 | 289 |
| 第171図 | 第74号墳出土埴輪 | 203 | 第208図 | 第53号住居跡出土遺物(1) | 290 |
| 第172図 | 第74号墳埴輪ハケ拓影 | 204 | 第209図 | 第54・57号住居跡 | 292 |
| 第173図 | 第75号墳 | 205 | 第210図 | 第54・57号住居跡カマド | 293 |
| 第174図 | 第75号墳遺物分布図 | 206 | 第211図 | 第54・57号住居跡遺物分布図 | 293 |
| 第175図 | 第75号墳出土遺物 | 207 | 第212図 | 第54・57号住居跡出土遺物 | 294 |
| 第176図 | 第75号墳埴輪ハケ拓影 | 208 | 第213図 | 第55号住居跡・カマド | 295 |
| 第177図 | 第75号墳円筒埴輪 | 209 | 第214図 | 第55号住居跡出土遺物 | 295 |
| 第178図 | 第76号墳 | 210 | 第215図 | 第56号住居跡 | 297 |
| 第179図 | 第77号墳 | 210 | 第216図 | 第56号住居跡出土遺物 | 298 |
| 第180図 | グリッド出土遺物・埴輪 | 211 | 第217図 | 第58号住居跡出土遺物 | 298 |
| 第181図 | グリッド出土形象埴輪 | 212 | 第218図 | 第58号住居跡・カマド | 299 |

| | | | | | |
|-------|-------------------|-----|-------|-----------------|-----|
| 第219図 | 第59号住居跡・カマド | 300 | 第256図 | 第71号住居跡出土遺物 | 333 |
| 第220図 | 第59号住居跡出土遺物 | 301 | 第257図 | 第71号住居跡遺物分布図 | 334 |
| 第221図 | 第60号住居跡・カマド・遺物分布図 | 302 | 第258図 | 第72号住居跡・カマド | 335 |
| 第222図 | 第60号住居跡出土遺物 | 303 | 第259図 | 第72号住居跡出土遺物 | 336 |
| 第223図 | 第61号住居跡出土遺物 | 304 | 第260図 | 第72号住居跡遺物分布図 | 337 |
| 第224図 | 第61号住居跡・カマド | 305 | 第261図 | 第73号住居跡 | 338 |
| 第225図 | 第61号住居跡遺物分布図 | 306 | 第262図 | 第73号住居跡出土遺物 | 338 |
| 第226図 | 第62号住居跡 | 307 | 第263図 | 第74号住居跡出土遺物 | 339 |
| 第227図 | 第62号住居跡出土遺物 | 308 | 第264図 | 第74号住居跡・カマド | 340 |
| 第228図 | 第62号住居跡遺物分布図 | 308 | 第265図 | 第74号住居跡遺物分布図 | 341 |
| 第229図 | 第63号住居跡・カマド | 309 | 第266図 | 第75号住居跡 | 342 |
| 第230図 | 第63号住居跡出土遺物 | 310 | 第267図 | 第75号住居跡出土遺物 | 342 |
| 第231図 | 第63号住居跡遺物分布図 | 311 | 第268図 | 第76号住居跡 | 343 |
| 第232図 | 第64号住居跡 | 312 | 第269図 | 第76号住居跡カマド | 344 |
| 第233図 | 第64号住居跡カマド | 313 | 第270図 | 第76号住居跡出土遺物 | 345 |
| 第234図 | 第64号住居跡出土遺物(1) | 314 | 第271図 | 第76号住居跡遺物分布図 | 346 |
| 第235図 | 第64号住居跡出土遺物(2) | 315 | 第272図 | 第77号住居跡・出土遺物 | 347 |
| 第236図 | 第64号住居跡遺物分布図 | 316 | 第273図 | 第77号住居跡遺物分布図 | 348 |
| 第237図 | 第65号住居跡 | 318 | 第274図 | 第78号住居跡 | 349 |
| 第238図 | 第65号住居跡カマド | 319 | 第275図 | 第78号住居跡カマド | 350 |
| 第239図 | 第65号住居跡出土遺物 | 320 | 第276図 | 第78号住居跡出土遺物 | 351 |
| 第240図 | 第65号住居跡遺物分布図 | 320 | 第277図 | 第78号住居跡遺物分布図 | 352 |
| 第241図 | 第66号住居跡・カマド | 321 | 第278図 | 第79号住居跡・カマド | 353 |
| 第242図 | 第66号住居跡遺物分布図 | 322 | 第279図 | 第79号住居跡出土遺物 | 354 |
| 第243図 | 第66号住居跡出土遺物 | 323 | 第280図 | 第79号住居跡遺物分布図 | 355 |
| 第244図 | 第67号住居跡・出土遺物 | 324 | 第281図 | 第80号住居跡・カマド | 357 |
| 第245図 | 第68号住居跡・カマド・遺物分布図 | 325 | 第282図 | 第80号住居跡出土遺物 | 358 |
| 第246図 | 第68号住居跡出土遺物 | 326 | 第283図 | 第80号住居跡遺物分布図 | 358 |
| 第247図 | 第69号住居跡 | 327 | 第284図 | 第81号住居跡 | 360 |
| 第248図 | 第69号住居跡出土遺物(1) | 327 | 第285図 | 第81号住居跡カマド(1) | 361 |
| 第249図 | 第69号住居跡出土遺物(2) | 328 | 第286図 | 第81号住居跡カマド(2) | 362 |
| 第250図 | 第69号住居跡遺物分布図 | 328 | 第287図 | 第81号住居跡出土遺物 | 363 |
| 第251図 | 第70号住居跡・カマド | 329 | 第288図 | 第81号住居跡遺物分布図 | 364 |
| 第252図 | 第70号住居跡遺物分布図 | 330 | 第289図 | 第82号住居跡 | 366 |
| 第253図 | 第70号住居跡出土遺物 | 330 | 第290図 | 第82号住居跡カマド・出土遺物 | 367 |
| 第254図 | 第71号住居跡・カマド(1) | 331 | 第291図 | 第82号住居跡遺物分布図 | 368 |
| 第255図 | 第71号住居跡カマド(2) | 332 | 第292図 | 第83号住居跡 | 368 |

| | | | | | |
|-------|-----------------|-----|-------|--------------------|-----|
| 第293図 | 第83号住居跡出土遺物 | 369 | 第330図 | 第96・104号住居跡 | 403 |
| 第294図 | 第83号住居跡遺物分布図 | 369 | 第331図 | 第96号住居跡出土遺物 | 404 |
| 第295図 | 第84号住居跡 | 370 | 第332図 | 第97・98号住居跡 | 405 |
| 第296図 | 第84号住居跡出土遺物 | 371 | 第333図 | 第97・98号住居跡カマド・出土遺物 | 406 |
| 第297図 | 第84号住居跡遺物分布図 | 371 | 第334図 | 第97・98号住居跡遺物分布図 | 407 |
| 第298図 | 第85号住居跡 | 372 | 第335図 | 第99号住居跡 | 408 |
| 第299図 | 第85号住居跡出土遺物 | 372 | 第336図 | 第99号住居跡出土遺物 | 409 |
| 第300図 | 第85号住居跡遺物分布図 | 373 | 第337図 | 第99号住居跡遺物分布図 | 409 |
| 第301図 | 第86号住居跡 | 374 | 第338図 | 第100号住居跡 | 410 |
| 第302図 | 第86号住居跡出土遺物 | 375 | 第339図 | 第102・103号住居跡 | 411 |
| 第303図 | 第86号住居跡遺物分布図 | 376 | 第340図 | 第102・103号住居跡カマド | 412 |
| 第304図 | 第87号住居跡 | 376 | 第341図 | 第102号住居跡出土遺物 | 413 |
| 第305図 | 第87号住居跡出土遺物 | 377 | 第342図 | 第103号住居跡出土遺物 | 414 |
| 第306図 | 第87号住居跡遺物分布図 | 377 | 第343図 | 第102・103号住居跡遺物分布図 | 415 |
| 第307図 | 第88・89号住居跡 | 379 | 第344図 | 第105号住居跡 | 416 |
| 第308図 | 第88号住居跡カマド | 380 | 第345図 | 第105号住居跡出土遺物 | 417 |
| 第309図 | 第89号住居跡カマド | 381 | 第346図 | 第105号住居跡遺物分布図 | 417 |
| 第310図 | 第88号住居跡出土遺物 | 382 | 第347図 | 第106号住居跡 | 418 |
| 第311図 | 第89号住居跡出土遺物 | 383 | 第348図 | 第107号住居跡・カマド・出土遺物 | 419 |
| 第312図 | 第88・89号住居跡遺物分布図 | 384 | 第349図 | 第108号住居跡 | 420 |
| 第313図 | 第90号住居跡出土遺物 | 385 | 第350図 | 第109号住居跡 | 421 |
| 第314図 | 第90号住居跡・カマド | 386 | 第351図 | 第109号住居跡カマド | 422 |
| 第315図 | 第90号住居跡遺物分布図 | 387 | 第352図 | 第109号住居跡出土遺物 | 423 |
| 第316図 | 第91号住居跡 | 388 | 第353図 | 第109号住居跡遺物分布図 | 424 |
| 第317図 | 第91号住居跡出土遺物 | 389 | 第354図 | 第110号住居跡・カマド | 426 |
| 第318図 | 第91号住居跡遺物分布図 | 390 | 第355図 | 第110号住居跡出土遺物 | 426 |
| 第319図 | 第92号住居跡 | 391 | 第356図 | 第110号住居跡遺物分布図 | 427 |
| 第320図 | 第92号住居跡出土遺物 | 392 | 第357図 | 第111号住居跡 | 428 |
| 第321図 | 第92号住居跡遺物分布図 | 392 | 第358図 | 第111号住居跡出土遺物 | 428 |
| 第322図 | 第93号住居跡 | 394 | 第359図 | 第111号住居跡遺物分布図 | 429 |
| 第323図 | 第93号住居跡出土遺物 | 395 | 第360図 | 第112号住居跡 | 430 |
| 第324図 | 第93号住居跡遺物分布図 | 396 | 第361図 | 第112号住居跡遺物分布図 | 430 |
| 第325図 | 第94・95号住居跡 | 398 | 第362図 | 第112号住居跡出土遺物 | 430 |
| 第326図 | 第94・95号住居跡カマド | 399 | 第363図 | 第113・114号住居跡・カマド | 432 |
| 第327図 | 第94号住居跡出土遺物 | 400 | 第364図 | 第113・114号住居跡出土遺物 | 433 |
| 第328図 | 第95号住居跡出土遺物 | 401 | 第365図 | 第115・116号住居跡 | 434 |
| 第329図 | 第94・95号住居跡出土遺物 | 402 | 第366図 | 第115・116号住居跡カマド | 435 |

| | | | | | |
|-------|-------------------|-----|-------|----------------|-----|
| 第367図 | 第115号住居跡出土遺物 | 435 | 第404図 | 新屋敷遺跡中・近世遺構配置図 | 472 |
| 第368図 | 第115・116号住居跡遺物分布図 | 436 | 第405図 | 第14号柵列跡 | 473 |
| 第369図 | 第116号住居跡出土遺物 | 436 | 第406図 | 第15号柵列跡出土遺物 | 474 |
| 第370図 | 第117号住居跡出土遺物 | 437 | 第407図 | 第15号柵列跡 | 475 |
| 第371図 | 第117号住居跡・カマド | 438 | 第408図 | 第16号柵列跡 | 476 |
| 第372図 | 第118号住居跡 | 439 | 第409図 | 第17号柵列跡 | 477 |
| 第373図 | 第118号住居跡出土遺物 | 439 | 第410図 | 第18号柵列跡 | 478 |
| 第374図 | 第119号住居跡 | 440 | 第411図 | 第18号柵列跡出土遺物 | 478 |
| 第375図 | 第119号住居跡出土遺物 | 441 | 第412図 | 第19号柵列跡 | 479 |
| 第376図 | 第119号住居跡遺物分布図 | 442 | 第413図 | 第20号柵列跡 | 479 |
| 第377図 | 第120号住居跡・カマド・出土遺物 | 443 | 第414図 | 第21号柵列跡 | 480 |
| 第378図 | 第87・94・121号井戸 | 445 | 第415図 | 第22号柵列跡 | 481 |
| 第379図 | 第87・94・121号井戸出土遺物 | 446 | 第416図 | 第23号柵列跡 | 482 |
| 第380図 | 新屋敷遺跡D区中・近世の遺構配置図 | 448 | 第417図 | 第24号柵列跡 | 483 |
| 第381図 | 第14号掘立柱建物跡 | 449 | 第418図 | 第25号柵列跡 | 484 |
| 第382図 | 第15号掘立柱建物跡・出土遺物 | 450 | 第419図 | 第26号柵列跡 | 485 |
| 第383図 | 第16号掘立柱建物跡 | 451 | 第420図 | 井戸(1) | 487 |
| 第384図 | 第17号掘立柱建物跡出土遺物 | 452 | 第421図 | 井戸(2) | 488 |
| 第385図 | 第17号掘立柱建物跡 | 453 | 第422図 | 井戸出土遺物(1) | 491 |
| 第386図 | 第18号掘立柱建物跡 | 454 | 第423図 | 井戸(3) | 492 |
| 第387図 | 第19号掘立柱建物跡出土遺物 | 454 | 第424図 | 井戸出土遺物(2) | 494 |
| 第388図 | 第19号掘立柱建物跡 | 455 | 第425図 | 井戸(4) | 495 |
| 第389図 | 第20号掘立柱建物跡 | 457 | 第426図 | 井戸(5) | 497 |
| 第390図 | 第21号掘立柱建物跡 | 458 | 第427図 | 井戸出土遺物(3) | 498 |
| 第391図 | 第21号掘立柱建物跡出土遺物 | 459 | 第428図 | 井戸出土遺物(4) | 499 |
| 第392図 | 第22号掘立柱建物跡 | 460 | 第429図 | 井戸(6) | 500 |
| 第393図 | 第23号掘立柱建物跡 | 461 | 第430図 | 井戸(7) | 503 |
| 第394図 | 第24号掘立柱建物跡 | 462 | 第431図 | 溝(1) | 508 |
| 第395図 | 第25号掘立柱建物跡 | 463 | 第432図 | 溝(2) | 510 |
| 第396図 | 第26号掘立柱建物跡 | 464 | 第433図 | 溝(3) | 512 |
| 第397図 | 第27号掘立柱建物跡 | 466 | 第434図 | 溝(4) | 514 |
| 第398図 | 第27号掘立柱建物跡出土遺物 | 467 | 第435図 | 溝出土遺物(1) | 516 |
| 第399図 | 第28号掘立柱建物跡出土遺物 | 467 | 第436図 | 溝出土遺物(2) | 517 |
| 第400図 | 第28号掘立柱建物跡 | 468 | 第437図 | ピット群配置図 | 520 |
| 第401図 | 第29号掘立柱建物跡・出土遺物 | 469 | 第438図 | 不明遺構 | 522 |
| 第402図 | 第30号掘立柱建物跡 | 470 | 第439図 | 土壇(1) | 524 |
| 第403図 | 第31号掘立柱建物跡 | 471 | 第440図 | 土壇(2) | 525 |

| | | | | | |
|-------|--------|-----|-------|-------------------|-----|
| 第441図 | 土壙(3) | 526 | 第469図 | 土壙(31) | 557 |
| 第442図 | 土壙(4) | 527 | 第470図 | 土壙(32) | 558 |
| 第443図 | 土壙(5) | 529 | 第471図 | 土壙(33) | 559 |
| 第444図 | 土壙(6) | 530 | 第472図 | 土壙(34) | 560 |
| 第445図 | 土壙(7) | 531 | 第473図 | 土壙(35) | 561 |
| 第446図 | 土壙(8) | 532 | 第474図 | 土壙(36) | 562 |
| 第447図 | 土壙(9) | 534 | 第475図 | 土壙(37) | 563 |
| 第448図 | 土壙(10) | 535 | 第476図 | 土壙(38) | 564 |
| 第449図 | 土壙(11) | 536 | 第477図 | 土壙(39) | 565 |
| 第450図 | 土壙(12) | 537 | 第478図 | 土壙(40) | 566 |
| 第451図 | 土壙(13) | 538 | 第479図 | 土壙(41) | 567 |
| 第452図 | 土壙(14) | 539 | 第480図 | 土壙出土遺物(1) | 568 |
| 第453図 | 土壙(15) | 540 | 第481図 | 土壙出土遺物(2) | 569 |
| 第454図 | 土壙(16) | 541 | 第482図 | 土壙出土遺物(3) | 570 |
| 第455図 | 土壙(17) | 542 | 第483図 | グリッド出土遺物(1) | 579 |
| 第456図 | 土壙(18) | 543 | 第484図 | グリッド出土遺物(2) | 580 |
| 第457図 | 土壙(19) | 544 | 第485図 | グリッド出土遺物(3) | 581 |
| 第458図 | 土壙(20) | 546 | 第486図 | グリッド出土遺物(4) | 582 |
| 第459図 | 土壙(21) | 547 | 第487図 | グリッド出土遺物(5) | 583 |
| 第460図 | 土壙(22) | 548 | 第488図 | 土器編年図(1) | 592 |
| 第461図 | 土壙(23) | 549 | 第489図 | 土器編年図(2) | 593 |
| 第462図 | 土壙(24) | 550 | 第490図 | 酸火焰焼成の土器集成 | 596 |
| 第463図 | 土壙(25) | 551 | 第491図 | 酸火焰焼成の土器出土量別分布図 | 597 |
| 第464図 | 土壙(26) | 552 | 第492図 | 墨書土器分布図 | 599 |
| 第465図 | 土壙(27) | 553 | 第493図 | 江戸以前の遺構配置図 | 602 |
| 第466図 | 土壙(28) | 554 | 第494図 | 江戸期の遺構配置図(17世紀後半) | 603 |
| 第467図 | 土壙(29) | 555 | 第495図 | 近世土器出土比率 | 606 |
| 第468図 | 土壙(30) | 556 | 第496図 | 17世紀後葉のかわらけ | 607 |

表 目 次

| | | | |
|-----------------|-----|-------------------|-----|
| 新屋敷遺跡の調査 | 13 | 第74号墳出土埴輪観察表 | 204 |
| 器種組成表 | 17 | 第75号墳出土遺物観察表 | 207 |
| 石器集中石材組成表 | 17 | 第75号墳出土埴輪観察表 | 208 |
| 礫群石材組成表 | 34 | グリッド出土遺物観察表 | 213 |
| 先土器時代石器観察表 | 39 | グリッド出土埴輪観察表 | 213 |
| グリッド出土石器一覧表 | 68 | 第43号墳出土埴輪計測表 | 215 |
| 第101号住居跡出土遺物観察表 | 72 | 第58号墳出土埴輪計測表 | 215 |
| 第43号墳出土遺物観察表 | 80 | 第60号墳出土埴輪計測表 | 216 |
| 第43号墳出土埴輪観察表 | 84 | 第61号墳出土埴輪計測表 | 217 |
| 第46号墳出土遺物観察表 | 87 | 第63号墳出土埴輪計測表 | 217 |
| 第55号墳出土遺物観察表 | 88 | 第74号墳出土埴輪計測表 | 218 |
| 第56号墳出土遺物観察表 | 90 | 第75号墳出土埴輪計測表 | 218 |
| 第57号墳出土遺物観察表 | 91 | 新屋敷・生出塚遺跡古墳一覧 | 233 |
| 第58号墳出土遺物観察表 | 102 | 第60号墳円筒埴輪分析表 | 243 |
| 第58号墳出土埴輪観察表 | 102 | 円筒埴輪編年表 | 245 |
| 第59号墳出土遺物観察表 | 105 | 紡錘車出土古墳一覧 | 255 |
| 第59号墳出土埴輪観察表 | 105 | 埼玉県内出土鈴鏡一覧 | 256 |
| 第60号墳出土遺物観察表 | 127 | 第51号住居跡出土遺物観察表 | 286 |
| 第60号墳出土埴輪観察表 | 148 | 第52号住居跡出土遺物観察表 | 288 |
| 第60号墳出土形象埴輪観察表 | 165 | 第53号住居跡出土遺物観察表 | 290 |
| 第61号墳出土遺物観察表 | 168 | 第54・57号住居跡出土遺物観察表 | 294 |
| 第61号墳出土埴輪観察表 | 170 | 第55号住居跡出土遺物観察表 | 296 |
| 第62号墳出土遺物観察表 | 171 | 第56号住居跡出土遺物観察表 | 297 |
| 第62号墳出土埴輪観察表 | 171 | 第58号住居跡出土遺物観察表 | 300 |
| 第63号墳出土遺物観察表 | 179 | 第59号住居跡出土遺物観察表 | 301 |
| 第63号墳出土埴輪観察表 | 184 | 第60号住居跡出土遺物観察表 | 303 |
| 第65号墳出土遺物観察表 | 190 | 第61号住居跡出土遺物観察表 | 306 |
| 第65号墳出土埴輪観察表 | 190 | 第62号住居跡出土遺物観察表 | 308 |
| 第68号墳出土遺物観察表 | 192 | 第63号住居跡出土遺物観察表 | 311 |
| 第70号墳出土遺物観察表 | 194 | 第64号住居跡出土遺物観察表 | 315 |
| 第71号墳出土遺物観察表 | 195 | 第65号住居跡出土遺物観察表 | 318 |
| 第72号墳出土遺物観察表 | 196 | 第66号住居跡出土遺物観察表 | 323 |
| 第73号墳出土遺物観察表 | 199 | 第67号住居跡出土遺物観察表 | 324 |
| 第73号墳出土埴輪観察表 | 199 | 第68号住居跡出土遺物観察表 | 326 |
| 第74号墳出土遺物観察表 | 201 | 第69号住居跡出土遺物観察表 | 328 |

| | | | |
|-----------------|-----|----------------------|-----|
| 第70号住居跡出土遺物觀察表 | 330 | 第103号住居跡出土遺物觀察表 | 416 |
| 第71号住居跡出土遺物觀察表 | 334 | 第105号住居跡出土遺物觀察表 | 417 |
| 第72号住居跡出土遺物觀察表 | 337 | 第107号住居跡出土遺物觀察表 | 420 |
| 第73号住居跡出土遺物觀察表 | 339 | 第109号住居跡出土遺物觀察表 | 425 |
| 第74号住居跡出土遺物觀察表 | 341 | 第110号住居跡出土遺物觀察表 | 426 |
| 第75号住居跡出土遺物觀察表 | 342 | 第111号住居跡出土遺物觀察表 | 429 |
| 第76号住居跡出土遺物觀察表 | 347 | 第112号住居跡出土遺物觀察表 | 431 |
| 第77号住居跡出土遺物觀察表 | 347 | 第113・114号住居跡出土遺物觀察表 | 433 |
| 第78号住居跡出土遺物觀察表 | 351 | 第115号住居跡出土遺物觀察表 | 437 |
| 第79号住居跡出土遺物觀察表 | 355 | 第116号住居跡出土遺物觀察表 | 437 |
| 第80号住居跡出土遺物觀察表 | 359 | 第117号住居跡出土遺物觀察表 | 437 |
| 第81号住居跡出土遺物觀察表 | 365 | 第118号住居跡出土遺物觀察表 | 439 |
| 第82号住居跡出土遺物觀察表 | 366 | 第119号住居跡出土遺物觀察表 | 442 |
| 第83号住居跡出土遺物觀察表 | 369 | 第120号住居跡出土遺物觀察表 | 442 |
| 第84号住居跡出土遺物觀察表 | 370 | 第87・94・121号井戸出土遺物觀察表 | 446 |
| 第85号住居跡出土遺物觀察表 | 373 | 第15号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 | 450 |
| 第86号住居跡出土遺物觀察表 | 375 | 第17号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 | 452 |
| 第87号住居跡出土遺物觀察表 | 378 | 第19号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 | 455 |
| 第88号住居跡出土遺物觀察表 | 382 | 第21号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 | 459 |
| 第89号住居跡出土遺物觀察表 | 383 | 第27号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 | 467 |
| 第90号住居跡出土遺物觀察表 | 387 | 第28号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 | 467 |
| 第91号住居跡出土遺物觀察表 | 389 | 第29号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 | 468 |
| 第92号住居跡出土遺物觀察表 | 392 | 第15号柵列跡出土遺物觀察表 | 474 |
| 第93号住居跡出土遺物觀察表 | 394 | 第18号柵列跡出土遺物觀察表 | 478 |
| 第94号住居跡出土遺物觀察表 | 401 | 井戸出土遺物觀察表 | 505 |
| 第95号住居跡出土遺物觀察表 | 401 | 溝出土遺物觀察表 | 518 |
| 第96号住居跡出土遺物觀察表 | 404 | 土壙出土遺物觀察表 | 567 |
| 第97号住居跡出土遺物觀察表 | 407 | 土壙一覽表 | 571 |
| 第98号住居跡出土遺物觀察表 | 407 | グリッド出土遺物觀察表 | 585 |
| 第99号住居跡出土遺物觀察表 | 409 | 新旧対照表 | 587 |
| 第102号住居跡出土遺物觀察表 | 413 | 近世土器組成表 | 606 |

図版目次

- 図版1 新屋敷遺跡全景
図版2 新屋敷遺跡D区全景
新屋敷遺跡D区調査前
図版3 新屋敷遺跡D区全景
図版4 表土除去作業、事務所設営、作業風景
図版5 作業風景、大蔵省鴻巣宿舍
図版6 石器集中7～9、礫群11～17
図版7 石器集中9・礫群14～16、尖頭器出土状況、基本土層
図版8 第121号住居跡、炉跡、第420号土壙
図版9 縄文時代の土壙
図版10 第101号住居跡、遺物出土状況、炉跡
図版11 第43号墳、遺物出土状況
図版12 第43号墳土器集中1・2、円筒埴輪
図版13 第43号墳円筒埴輪出土状況、円筒埴輪
図版14 第46号墳、土師器坏
図版15 第55号墳、周溝土層断面、土師器坏・埴
図版16 第56号墳、周溝土層断面、土師器坏
図版17 第57号墳、土師器坏
図版18 第58号墳、土師器坏・甕、線刻画紡錘車
図版19 第58号墳円筒埴輪出土状況、円筒埴輪
図版20 第59号墳、周溝土層断面、土師器坏
図版21 第60号墳
図版22 第60号墳前上部土層断面、後円部土層断面、括れ部土層断面
図版23 第60号墳土器集中1、土器集中2
図版24 第60号墳土師器鉢・甕
図版25 第60号墳紡錘車・U字形刃先
図版26 第60号墳拡大範囲3、円筒埴輪
図版27 第60号墳円筒埴輪
図版28 第60号墳円筒埴輪、朝顔形埴輪
図版29 第61号墳、周溝土層断面、土師器坏・紡錘車・刀子
図版30 第62号墳、周溝土層断面
図版31 第63号墳、周溝土層断面
図版32 第63号墳土器集中1、土師器坏・直口壺、須恵器甕
図版33 第63号墳土器集中2、土師器坏・甕
図版34 第63号墳土師器壺、紡錘車、円筒埴輪
図版35 第64号墳、第65号墳、周溝土層断面
図版36 第65号墳土器集中1・2、土師器坏
図版37 第66号墳、第67号墳、第68号墳
図版38 第69号墳、第70号墳、第71号墳
図版39 第72号墳、周溝土層断面、土師器坏
図版40 第73号墳、周溝土層断面、土師器小型壺
図版41 第74号墳、周溝土層断面
図版42 第74号墳周溝土層断面、土師器坏・甕
図版43 第75号墳、周溝土層断面、紡錘車
図版44 第75号墳円筒埴輪、第76号墳、周溝土層断面
図版45 全景、第51号住居跡、カマドa
図版46 第51号住居跡カマドb・c、第52号住居跡
図版47 第52号住居跡カマド遺物出土状況、第53号住居跡、カマド
図版48 第54号住居跡、カマド遺物出土状況、第55号住居跡
図版49 第55号住居跡カマド遺物出土状況、第56・57号住居跡
図版50 第57号住居跡カマド遺物出土状況、第58号住居跡遺物出土状況、カマド
図版51 第58号住居跡掘形、第59号住居跡、カマド
図版52 第60号住居跡遺物出土状況、カマド遺物出土状況、第61号住居跡
図版53 第61号住居跡カマドa・b遺物出土状況、第62号住居跡
図版54 第62号住居跡カマド遺物出土状況、第63号住居跡、遺物出土状況
図版55 第63号住居跡カマド遺物出土状況、第64号住居跡、遺物出土状況
図版56 第64号住居跡カマドa、カマドb・c、カマドb・c遺物出土状況

- 図版57 第64号住居跡遺物出土状況、掘形、第65号住居跡
- 図版58 第65号住居跡遺物出土状況、カマド、カマド遺物出土状況
- 図版59 第65号住居跡遺物出土状況、第66号住居跡、カマド a・b
- 図版60 第66号住居跡遺物出土状況、第67号・第68号住居跡
- 図版61 第68号住居跡カマド・第68号住居跡遺物出土状況、第69号住居跡
- 図版62 第69号住居跡カマド・第69号住居跡遺物出土状況、第70号住居跡
- 図版63 第70号住居跡カマド、第71号住居跡、遺物出土状況
- 図版64 第71号住居跡カマド a・カマド b 遺物出土状況、第72号住居跡
- 図版65 第72号住居跡カマド、遺物出土状況、第73号住居跡
- 図版66 第73号住居跡カマド、第74号住居跡、遺物出土状況
- 図版67 第74号住居跡カマド、第75号・第76号住居跡
- 図版68 第76号住居跡カマド a、カマド b 遺物出土状況、第77号住居跡
- 図版69 第78号住居跡、第78号住居跡カマド遺物出土状況、第79号住居跡
- 図版70 第79号住居跡・カマド遺物出土状況、第80号住居跡
- 図版71 第80号住居跡カマド、遺物出土状況、全景
- 図版72 第81号住居跡、カマド a、カマド b
- 図版73 第81号住居跡カマド c、第82号住居跡、カマド b
- 図版74 第83号・第84号住居跡、第84号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版75 第85号住居跡、カマド、第86号住居跡
- 図版76 第86号住居跡カマド、第86号住居跡遺物出土状況、炭化物出土状況
- 図版77 第87号住居跡、第88・89号住居跡遺物出土状況、第88号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版78 第88号住居跡遺物出土状況、第89号住居跡カマド a・カマド b 遺物出土状況
- 図版79 第90号住居跡、カマド、カマド遺物出土状況
- 図版80 第90号住居跡遺物出土状況、第91号住居跡、カマド
- 図版81 第92号住居跡、カマド、炉跡
- 図版82 第93号住居跡、カマド、第94・95号住居跡
- 図版83 第94号・第95号住居跡カマド、第96・104号住居跡
- 図版84 第96・104号住居跡カマド、第97号住居跡
- 図版85 第97号住居跡カマド遺物出土状況、第98号住居跡、カマド遺物出土状況
- 図版86 第99号住居跡遺物出土状況、カマド、第102号住居跡
- 図版87 第102号住居跡カマド、第103号住居跡、カマド
- 図版88 第103号住居跡カマド、住居跡遺物出土状況、第105号住居跡
- 図版89 第106号住居跡、カマド、第107号住居跡
- 図版90 第107号住居跡カマド遺物出土状況、第108号住居跡、カマド
- 図版91 第109号住居跡、カマド a、b
- 図版92 第109号住居跡遺物出土状況、第110号住居跡、カマド
- 図版93 第111号住居跡、カマド、第112号住居跡
- 図版94 第113・114号住居跡、第113号・第114号住居跡カマド a
- 図版95 第114号住居跡カマド b、第115・116号住居跡、第115号住居跡カマド a・b 遺物出土状況
- 図版96 第115号住居跡遺物出土状況、第116号住居跡カマド、第117号住居跡
- 図版97 第117号住居跡カマド遺物出土状況、第118号・第119号住居跡
- 図版98 第119号住居跡カマド、第119号住居跡遺物出土状況、
- 図版99 第120号住居跡、第120号住居跡カマド a、b

- 図版100 第14～21号掘立柱建物跡
- 図版101 第22号掘立柱建物跡、土層断面、第23・25～27号掘立柱建物跡、第27号掘立柱建物跡柱穴内遺物出土状況
- 図版102 第28号掘立柱建物跡、土層断面、第29～31号掘立柱建物跡、第14～16・22・23号柵列跡
- 図版103 第57～59号井戸、第60号井戸遺物出土状況、第61～64号井戸
- 図版104 第64号井戸断面・遺物出土状況、第65・67～70・73・74号井戸
- 図版105 第75・77～80・83・84・86号井戸
- 図版106 第88～95号井戸
- 図版107 第96～103号井戸
- 図版108 第104号井戸、第105・120号井戸遺物出土状況、第106～111号井戸
- 図版109 第112～121号井戸
- 図版110 第70・86・87号溝、遺物出土状況、90号溝、第142号溝遺物出土状況、第233・252・340号土壙
- 図版111 第253・271・258～260・262～264・267号土壙
- 図版112 第268・269・274・275・277号土壙、第278号土壙遺物出土状況、第280・283号土壙
- 図版113 第285・288・289・299・300・291・294～296号土壙
- 図版114 第301号土壙遺物出土状況、第302・303・309～314号土壙
- 図版115 第321・323・324・326・327・330・331・341、391号土壙
- 図版116 第392・393・397・398・984・399・400・407、445号土壙、596号土壙遺物出土状況
- 図版117 第602・618・682・652・664・713・721・722号土壙
- 図版118 第723号土壙、第793号土壙遺物出土状況、土壙群、第9号地下式壙、ピット(U-10G)P10、(AA-20G)P1遺物出土状況
- 図版119 先土器時代の石器(1)
- 図版120 先土器時代の石器(2)
- 図版121 先土器時代の石器(3)
- 図版122 グリッド出土の縄文土器(1)
グリッド出土の縄文土器(2)
- 図版123 第121号住居跡出土縄文土器
第420号土壙出土縄文土器
- 図版124 グリッド出土の縄文土器(3)
グリッド出土の縄文土器(4)
- 図版125 グリッド出土の縄文土器(5)
グリッド出土の石器
- 図版126 古墳出土土器(1)
- 図版127 古墳出土土器(2)
- 図版128 古墳出土土器(3)
- 図版129 古墳出土土器(4)
- 図版130 古墳出土土器(5)
- 図版131 古墳出土土器(6)
- 図版132 古墳出土土器(7)
- 図版133 古墳出土土器(8)
- 図版134 古墳出土土器(9)
- 図版135 グリッド出土土器
グリッド出土円筒埴輪
- 図版136 古墳出土円筒埴輪(1)
- 図版137 古墳出土円筒埴輪(2)
- 図版138 古墳出土円筒埴輪(3)
- 図版139 古墳出土円筒埴輪(4)
- 図版140 古墳出土円筒埴輪(5)
- 図版141 古墳出土円筒埴輪(6)
- 図版142 古墳出土円筒埴輪(7)
- 図版143 古墳・グリッド出土形象埴輪
- 図版144 第60号墳出土円筒埴輪(1)
- 図版145 第60号墳出土円筒埴輪(2)
- 図版146 第60号墳出土円筒埴輪(3)
- 図版147 第60号墳出土円筒埴輪(4)
- 図版148 第60号墳出土円筒埴輪(5)
- 図版149 第60号墳出土円筒埴輪(6)
- 図版150 第60号墳出土円筒埴輪(7)
- 図版151 第60号墳出土円筒埴輪(8)

- 図版152 第60号墳出土円筒埴輪 (9)
 図版153 第60号墳出土円筒埴輪 (10)
 図版154 第60号墳出土円筒埴輪 (11)
 図版155 第60号墳出土円筒埴輪 (12)
 図版156 第60号墳出土円筒埴輪 (13)
 図版157 第60号墳出土円筒埴輪 (14)
 図版158 第60号墳出土土形象埴輪 (1)
 図版159 第60号墳出土土形象埴輪 (2)
 図版160 第60号墳出土土形象埴輪 (3)
 図版161 第60号墳出土土形象埴輪 (4)
 図版162 第60号墳出土土形象埴輪 (5)
 図版163 第60号墳出土土形象埴輪 (6)
 図版164 第60号墳出土土形象埴輪 (7)
 図版165 第60号墳出土土形象埴輪 (8)
 図版166 第60号墳出土土形象埴輪 (9)
 図版167 第60号墳出土土形象埴輪 (10)
 図版168 古墳出土鉄製品 (1)
 図版169 古墳出土鉄製品 (2)・鈴鏡
 図版170 古墳出土紡錘車
 図版171 住居跡出土遺物 (1)
 図版172 住居跡出土遺物 (2)
 図版173 住居跡出土遺物 (3)
 図版174 住居跡出土遺物 (4)
 図版175 住居跡出土遺物 (5)
 図版176 住居跡出土遺物 (6)
 図版177 住居跡出土遺物 (7)
 図版178 住居跡出土遺物 (8)
 掘立柱建物跡出土遺物 (1)
 図版179 井戸出土遺物 (1)
 図版180 井戸出土遺物 (2)
 溝出土遺物 (1)
 図版181 溝出土遺物 (2)
 土壙出土遺物 (1)
 グリッド出土遺物 (1)
 図版182 グリッド出土遺物 (2)
 図版183 住居跡出土遺物 (9)
 図版184 住居跡出土遺物 (10)
 掘立柱建物跡出土遺物 (2)
 井戸出土遺物 (3)
 図版185 井戸出土遺物 (4)
 土壙出土遺物 (2)
 グリッド出土遺物 (3)
 図版186 井戸出土遺物 (5)
 溝出土遺物 (3)
 図版187 住居跡出土遺物 (11)
 図版188 住居跡出土遺物 (12)
 図版189 住居跡出土遺物 (13)
 土壙出土遺物 (3)
 グリッド出土遺物 (4)
 図版190 土壙出土遺物 (4)
 図版191 土壙出土遺物 (5)
 住居跡出土遺物 (14)
 図版192 住居跡出土遺物 (15)
 図版193 住居跡出土遺物 (16)
 溝出土遺物 (4)
 グリッド出土遺物 (5)
 図版194 住居跡出土遺物 (16)
 土壙出土遺物 (6)
 グリッド出土遺物 (6)
 井戸出土遺物 (6)
 図版195 住居跡出土金属器 (1)
 図版196 住居跡出土金属器 (2)
 図版197 住居跡出土金属器 (3)
 図版198 住居跡出土金属器 (4)
 土壙・溝出土金属器
 古銭 (1)
 図版199 古銭 (2)
 図版200 住居跡出土砥石
 その他の遺構出土砥石

I 調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

鴻巣市東4丁目の農事試験場跡地利用については、国、埼玉県、埼玉県住宅供給公社により開発事業が計画され、各々の施設建設計画が進行しているところである。大蔵省では、平成6年度及び7年度の宿舍設置計画に基づき、当事業地における宿舍建設が計画された。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、こうした各種開発事業に対応するため、開発部局と事前協議を行い、文化財保護と開発事業との調整を進めているところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、農事試験場跡地開発に係る事業者を代表して、埼玉県住宅供給公社理事長より、平成元年11月20日付け元埼玉公企第109号で埋蔵文化財の所在についての照会があった。開発予定地には新屋敷遺跡が所在することが既に知られていたが、遺構・遺物の密度、範囲等について不明な点があったため、試掘調査を実施した。文化財保護課ではその結果を持って、平成元年12月25日付け教文第1274号で、埋蔵文化財の所在とその取扱いについて、次のように回答した。

1 埋蔵文化財の所在

| 名称 | 種別 | 時代 | 所在地 |
|----------------------|------------|----------------------|---------------|
| 新屋敷遺跡 (No.13-024) | 集落跡 古墳群 | 縄文、古墳 奈良・平安 近世 | 鴻巣市東4 丁目地内 |

2 取り扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地については現状で保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状を変更する場合は、事前に文化財保護法第57条の3の規定に基づいて文化庁長官あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。

なお、発掘調査の実施については当教育局指導部文化財保護課と別途協議してください。

発掘調査については、調査実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、大蔵省関東財務局、文化財保護課の三者により、調査方法、期間、経費等を中心に協議が行われ、その結果、平成6年度は平成6年7月1日から平成7年3月31日まで、平成7年度は平成7年4月1日から同年9月30日までの予定で発掘調査が実施されることで協議が整った。

各年度における発掘調査に先立って、事業者側から文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づく発掘通知が、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団からは同法57条第1項の規定に基づく発掘調査届が提出され、発掘調査が実施された。

なお、調査届に対する指示通知番号は、次の通りである。

平成6年8月11日付け 教文第2-81号

平成7年4月18日付け 教文第2-4号

(文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

新屋敷遺跡D区の発掘調査は、平成6年7月1日から平成7年9月30日にかけて行われた。

平成6年7月1日から発掘調査の準備を始め、7月末までにプレハブ用地の調査を終了して、設営を行った。また併行して調査区内に存在する雑木の伐採や片づけ、農業試験場跡地に雛壇状に残されたコンクリートの擁壁の撤去等を行い、8月下旬頃に終了した。

整地が完了してから、表土除去を始めたが、調査区内で残土を反転させる必要があり、調査区内の約6割の面積の表土除去を行って9月末頃に終了した。

調査は表土除去と併行して行われたが、本格的には10月に入ってからとなった。調査はプレハブ事務所の出入り口や交通状況を考慮し、西側から行った。D区からは予想以上に遺構・遺物が多く検出され、新屋敷遺跡では初めて前方後円墳の存在も明らかになった。

平成7年3月18日には現地説明会を行い、みぞれ混じりの寒風の中、県内外から多くの参加者を得、改めて本遺跡に対する関心の高さが窺えた。

2月の中旬頃までに調査区の西半分(前方後円墳の一部を除く)の調査を終了、航空写真測量を撮影した。3月中旬頃までに埋め戻しと、残土の反転、東半分の調査区の表土除去を終了し、確認調査と合わせて調査を進めた。

平成7年度は、前年度に調査途中であった前方後円墳の東側部分から調査を開始し、順次東側へと進め、先土器時代を除く調査を8月末までに終了した。

9月よりC区から続く、調査区北東部の谷頭側に広がる先土器時代の調査を開始した。

9月下旬までに遺構図等のチェックを終えた後、航空写真撮影等を行い、9月末までに調査のすべてを終了した。

(2) 整理作業

整理作業は平成8年4月1日～平成10年3月31日まで行った。

平成8年4月1日から図面整理と出土遺物の水洗・注記を行った。図面整理は併行して、第二原図を作成した。水洗・注記は7月末で終了し、8月からは平安時代以降の遺物の分類作業を行った。その後接合・復元・拓本採りを行い、平安時代～江戸時代の接合・復元は10月中旬までにほぼ終了し、実測図の作成を開始した。

10月からは平安時代の住居跡の第二原図の作成を開始し、順次トレースに入った。拓本採り及び平安時代以降の遺物実測も翌年3月までに終了した。また、平安時代以降の接合・復元が終わると同時に、古墳時代の遺物を分類した後、接合・復元も進め、翌年3月に終了した。

平成9年4月からは、平成8年度に作成した第二原図及び遺物のトレースを行い、版下作成を行った。同時に、古墳時代後期の遺物の実測を開始し、11月上旬に終了した。

4～7月は先土器時代、縄文時代の図面整理を行うと共に、石器と土器の接合作業を行った。また、古墳時代前期の出土遺物も実測を開始した。

8～9月は先土器時代の石器の実測と、縄文時代の拓本採りを行った。また、遺構の版組も同時に進行し、大部分を終了した。

11～12月上旬までには遺物・先土器・縄文時代の版組みと写真撮影が、12月下旬までには先土器・縄文時代の版組も終了した。また、併行して行われていた原稿執筆も12～1月上旬までに終了して、全体の割付もほどなく、終了した。2月上旬には編集も終了して印刷校正に入り、3月31日に本報告書を刊行した。

3. 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査（平成6・7年度）

| | |
|-------------|------------|
| 理事長 | 荒井 桂 |
| 副理事長 | 富田 真也 |
| 専務理事 | 栃原 嗣雄 (H6) |
| 専務理事 | 吉川 國男 (H7) |
| 常務理事(兼)管理部長 | 加藤 敏昭 (H6) |
| 常務理事(兼)管理部長 | 新井 秀直 (H7) |
| 理事(兼)調査部長 | 小川 良祐 |

(2) 整理事業（平成8・9年度）

| | |
|-------------|-------------|
| 理事長 | 荒井 桂 |
| 副理事長 | 富田 真也 |
| 専務理事 | 吉川 國男 (H8) |
| 専務理事 | 塩野 博 (H9) |
| 常務理事(兼)管理部長 | 稲葉 文夫 |
| 理事(兼)調査部長 | 小川 良祐 (H8) |
| 理事(兼)調査部長 | 梅沢 太久夫 (H9) |

<管理部>

| | |
|--------------|-------------|
| 庶務課長 | 及川 孝之 |
| 主査 | 市川 有三 |
| 主任 | 長滝 美智子 (H7) |
| 主事 | 長滝 美智子 (H6) |
| 主事 | 菊池 久 |
| 専門調査員(兼)経理課長 | 関野 栄一 |
| 主任 | 江田 和美 |
| 主任 | 福田 昭美 (H7) |
| 主事 | 福田 昭美 (H6) |
| 主任 | 腰塚 雄二 (H7) |
| 主事 | 腰塚 雄二 (H6) |

<管理部>

| | |
|--------------|------------|
| 庶務課長 | 依田 透 |
| 主査 | 西沢 信行 |
| 主任 | 長滝 美智子 |
| 主任 | 腰塚 雄二 (H9) |
| 主事 | 菊池 久 (H8) |
| 専門調査員(兼)経理課長 | 関野 栄一 |
| 主任 | 江田 和美 |
| 主任 | 福田 昭美 |
| 主任 | 腰塚 雄二 (H8) |
| 主任 | 菊池 久 (H9) |

<調査部>

| | |
|--------|------------|
| 調査部副部長 | 高橋 一夫 |
| 調査第四課長 | 酒井 清治 |
| 主任調査員 | 昼間 孝志 |
| 主任調査員 | 西口 正純 (H7) |
| 主任調査員 | 田中正夫 |
| 調査員 | 熊澤 孝之 (H6) |

<資料部>

| | |
|------------------|-------------|
| 資料部長 | 梅沢 太久夫 (H8) |
| 資料部長 | 谷井 彪 (H9) |
| 主幹(兼)資料部副部長 | 谷井 彪 (H8) |
| 主幹(兼)資料部副部長 | 小久保 徹 (H9) |
| 専門調査員(兼)資料整理第一課長 | 今泉 泰之 (H8) |
| 専門調査員(兼)資料整理第一課長 | 坂野 和信 (H9) |
| 主査 | 昼間 孝志 (H9) |
| 主任調査員 | 昼間 孝志 (H8) |
| 主任調査員 | 大谷 徹 (H9) |

II 遺跡の立地と環境

新屋敷遺跡は鴻巣市東4丁目に所在し、JR高崎線鴻巣駅の北東約0.9kmに位置する。

鴻巣市は埼玉県の中央よりやや東に位置し、行政区では東は北埼玉郡騎西町、南埼玉郡菖蒲町、西は北足立郡吹上町と荒川を境として比企郡吉見町、南は桶川市・北本市、北は行田市・北埼玉郡川里村に接している。市のほぼ中央部を旧中山道を挟んでJR高崎線と国道17号が縦断し、東部の低地部を上越新幹線が通過している。

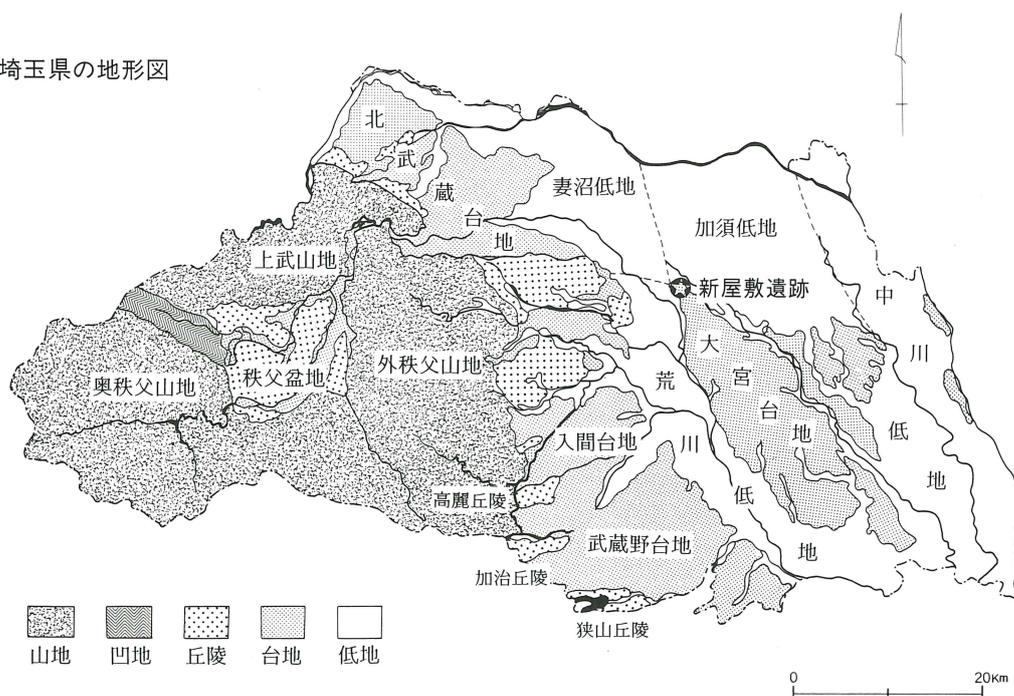
地形的には大宮台地が北西方向に半島状に突き出した位置に所在し、東側を元荒川、西側を荒川がそれぞれ南流し、加須低地、荒川低地と呼ばれる肥沃な沖積低地を形成している。また元荒川流域には自然堤防が帯状に発達し、従来は遺跡の分布が知られていなかった自然堤防上にも、近年の調査により遺跡の発見が相次いでいる。

新屋敷遺跡は元荒川に向かう台地東側斜面に位置し、遺跡の標高は14~19mを測る。調査区内は農林水産省農事試験場の実験圃場として利用されていたため

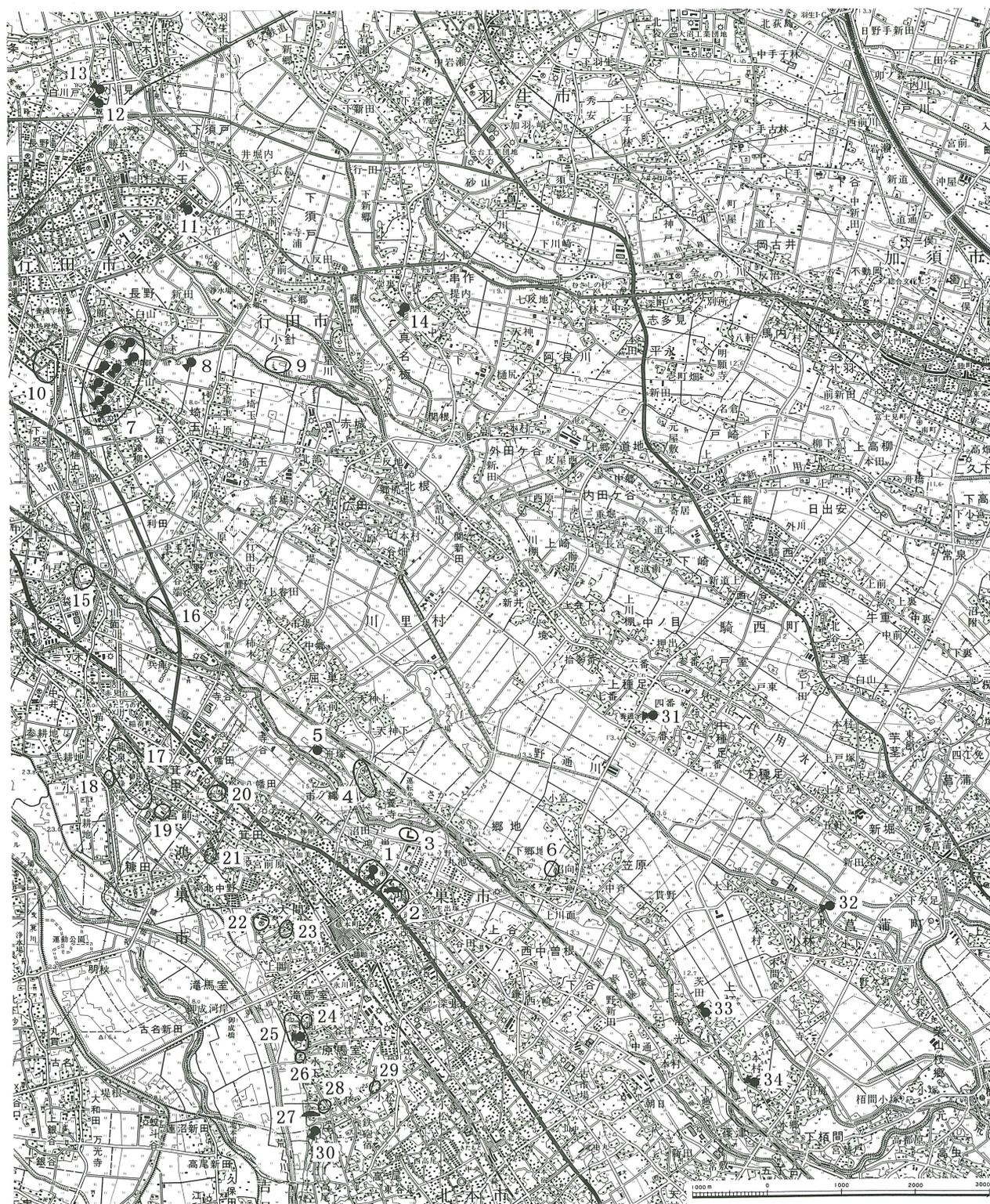
雛壇状の造成が行われ、旧地形が大きく改変されていた。現状では旧地形を復元することは難しいが、標高15~16mラインを境に上位・下位段丘面に大きく分けられる。また調査区北端から隣接するC区にかけて埋没谷が大きく湾入し、地表面からの観察以上に複雑な微地形を形成していることが明らかにされた。

遺跡周辺における台地部の標高は鴻巣市原馬室付近で約25mを測り、北と東に向かってなだらかに傾斜している。一方、台地西側縁辺部は荒川低地と約8mの比高差を測りやや急峻であるが、その崖線も北に行くにつれ低くなり、鴻巣市箕田付近で洪積台地は河川の堆積土によって埋没し、自然堤防状の微高地となっている。また台地の西側縁辺部は、荒川低地に向かって多くの小支谷が発達しているのに対して、東側縁辺部は比較的緩やかに低地部へ移行し、台地部と低地部の境界は不明瞭となる。このような地理的条件から、荒川水系と元荒川水系の台地縁辺部に沿って数多くの遺跡が分布していることが近年の発掘調査で明らかにされている。

第1図 埼玉県の地形図



第2図 先土器～古墳時代の遺跡分布図



1. 新屋敷遺跡 2. 生出塚遺跡 3. 中三谷遺跡 4. 安養寺古墳群 5. 舟塚古墳 6. 笠原古墳群 7. 埼玉古墳群 8. 若王子古墳 9. 小針遺跡 10. 佐間古墳群 11. 三方塚古墳 12. 小見真観寺古墳 13. 虚空蔵山古墳 14. 真名板高山古墳 15. 袋・台遺跡 16. 築道下遺跡 17. 箕田古墳群 18. 富士山南遺跡 19. 宮前本田遺跡 20. 二本木遺跡 21. 登戸新田遺跡 22. 城山遺跡 23. 大間原遺跡 24. 下間遺跡 25. 馬室將軍塚古墳 26. 馬室小校庭内遺跡 27. 馬室埴輪窯跡群 28. 赤台遺跡 29. 権現遺跡 30. 北袋古墳 31. 小沼耕地1号墳 32. 東浦古墳 33. 夫婦塚古墳 34. 天王山塚古墳

先土器時代の遺跡は、大宮台地西縁部の宮前遺跡、城山遺跡、赤台遺跡、東縁部の生出塚遺跡、新屋敷遺跡、埋没台地上の中三谷遺跡等が確認されている。

新屋敷遺跡では昭和61年に市教育委員会が実施した第1次調査でナイフ形石器、尖頭器、大形剥片等が発見されたのを端緒に、C・D区の調査において埋没谷の谷頭を囲む複数の石器集中・礫群の全容が明らかにされた。黒曜石製のナイフ形石器、頁岩製の尖頭器等の石器群がまとまって出土し、大宮台地北部における該期の良好な資料を提供した。

周辺では新屋敷遺跡の南側に隣接する生出塚遺跡からナイフ形石器が出土しているほか、埋没台地上に立地する中三谷遺跡からナイフ形石器、角錐状石器等が検出され、武蔵野台地第IV下層に対比される良好な石器群が出土している。また荒川左岸の赤台遺跡から出土したナイフ形石器は、瀬戸内地方に特徴的な国府型ナイフ形石器に類似しており注目される。

縄文時代の遺跡は、大宮台地の縁辺及び自然堤防上に多くの遺跡が分布している。草創期の遺物には富士山南遺跡から爪形文土器が出土している。早期の遺跡は撚糸文系土器が馬室小校庭内遺跡から、押型文土器が中三谷遺跡から出土し、権現遺跡、赤台遺跡では条痕文系土器を伴う住居跡、炉穴等が調査されている。前期の代表的な遺跡としては赤台遺跡、二本木遺跡、城山遺跡等が知られている。中期の遺跡には中期前半の大間原遺跡、中期後半の赤台遺跡からまとまった資料が出土している。後・晩期の調査例には、埋没台地上の中三谷遺跡と台地部の権現遺跡等からまとまった資料が出土している。

新屋敷遺跡では、今までの調査でC区から草創期の石斧と有茎尖頭器が出土しているほか、中期の浅鉢が埋没谷部分から発見されている。今回のD区の調査では上位段丘面縁辺に中期後半の住居跡1軒が検出されたのをはじめ、中期後半の土器を出土した土壇1基とTピット14基が確認されている。

弥生時代の遺跡が数多く分布する大宮台地南部に比べ、台地北部における当該時期の遺跡分布はやや希薄

となる。市域では登戸新田遺跡で、後期の方形周溝墓が調査されているだけで、現状では集落遺跡の調査はほとんどなされていない。

古墳時代における集落遺跡は、古墳時代前期の住居跡が調査された宮前本田遺跡、大間原遺跡、馬室小校庭内遺跡、下間遺跡、新屋敷遺跡等が知られる。新屋敷遺跡では現在までに前期の住居跡が20軒以上調査され、隣接する生出塚遺跡でも同時期の住居が4軒調査されている。また前期から後期に継続して営まれた集落として行田市築道下遺跡、鴻巣市赤台遺跡、中三谷遺跡、生出塚遺跡等があげられる。

このうち生出塚遺跡は、新屋敷遺跡の南側に隣接し本来は同一の遺跡群と把握されるもので、現在までの調査で埴輪窯跡40基、工房跡2基、粘土採掘壙1基、住居跡9軒、古墳跡18基等が検出されている。県内でも有数の埴輪製作遺跡として知られ、埴輪窯だけでなく工房や工人集落、粘土採掘壙など埴輪生産に関わる一連の遺構が検出され、埴輪製作遺跡の全容が解明されつつある。

生出塚遺跡から埴輪が供給された遺跡として埼玉古墳群、笠原古墳群、小沼耕地遺跡等の元荒川流域の古墳群が知られているほか、千葉県市原市市倉1号墳、市川市法皇塚古墳、東京都赤羽台古墳群等のような遠距離の古墳にも供給された可能性が指摘されている。また荒川に面した大宮台地西縁には馬室埴輪窯跡が所在しており、埴輪の需給関係の様相の解明が今後の大きな課題と言えよう。

周辺の古墳群としては、北西約7.5kmに行田市埼玉古墳群が所在しているのをはじめ、元荒川流域では北から吹上町袋・台古墳群、川里村舟塚古墳、鴻巣市箕田古墳群、生出塚古墳群、安養寺古墳群、笠原古墳群、騎西町小沼耕地遺跡、菖蒲町東浦古墳、栢山古墳群、蓮田市椿山古墳群等が所在している。

一方荒川流域では北から鴻巣市糠田古墳群(消滅)、馬室古墳群、北本市北袋古墳群、中井古墳群、八重塚古墳群、桶川市川田谷古墳群等が台地縁辺部に連綿と分布している。

奈良・平安時代の遺跡は、調査例が少なく、調査例の豊富な県北地域などと比較すると不明瞭である。大宮台地では本遺跡の他に椿山遺跡、氷川神社東遺跡などが大集落として知られている。いずれも平安時代を中心とした集落遺跡であって、奈良時代から平安時代まで継続するような遺跡は極めて少ない。

周辺の奈良時代の遺跡では赤台遺跡、宮前遺跡、荒川附遺跡などが知られている。このうち赤台遺跡では、8世紀前半の住居跡と掘立柱建物跡が検出されている。

平安時代の遺跡では、本遺跡の他に椿山遺跡、大山遺跡、氷川神社東遺跡、東北原遺跡などが知られている。これらの遺跡は、概ね9世紀後半頃に形成され、短期間で消滅する場合もあるが、多くは10世紀後半まで営まれている。本遺跡と椿山遺跡はともに100軒を越える集落であるが、9世紀中頃から本格的に集落の形成が始められ、10世紀後半頃まで継続されている。この間、出土遺物には様々な変化がみられる。遺物の大半は土器であるが、県内産を中心としながらも各地から搬入されている。須恵器は当初は南比企産が主体で、地域によって多少の差はあるが次第に末野産や常陸新治産などの占める比率が高くなる傾向を示している。

また、土師器は甕類が主体で、坏類も極少量含まれている。また、須恵器、土師器の他に酸化焰焼成された土器群も含まれ、時代が新しくなるほど増加する傾向を示している。東北原遺跡や御蔵山中遺跡などでは、酸化焰焼成土器の焼成遺構が多数検出され、須恵器生産後の新たな生産体系の傍証となるものとして注目されている。

一方、この時代で注目されるものに鉄生産があげられる。集落遺跡からはかなりの比率で鉄製品が出土する場合もみられ、本遺跡でも鉄製品の他に小鍛冶炉とみられる遺構が検出されている。鉄製品は平安時代では、集落などを通して土器類と同様に相当流通していた可能性が高く、奈良時代以上に鉄の普及が進んだことを窺わせている。鉄生産に関連する周辺の遺跡では

宮脇遺跡、大山遺跡などの製鉄炉、向原遺跡の炭焼窯などがあげられる。

中世の遺跡では、本遺跡の他に生出塚遺跡、中三谷遺跡、石戸城遺跡、菖蒲城跡などがあげられる。このうち、新屋敷遺跡では調査区境に方形にめぐる箱葉研の溝跡が二重に検出されている。溝跡は堀跡と呼べる規模の大きなもので、北西側が検出されたことになる。さらに北側では、常滑産の甕や中国産の青磁を伴う溝跡も検出されている。

新屋敷遺跡の東約700mに位置する中三谷遺跡では、北辺で約107mの「コ」の字に巡る堀跡が検出されている。堀跡は台形に近い方形館の一部と推定され、13世紀代の常滑産、渥美産の甕が出土している。新屋敷遺跡との関連性は不明瞭であるが、出土遺物の一部は同時代のものであり、今後の検討課題となりそうである。

また、新屋敷遺跡では室町時代の遺物として、第二次調査で金銅製懸仏が出土している。

近世の遺跡では、本遺跡の他に鴻巣御殿跡、生出塚遺跡、伊奈氏屋敷跡、関戸多利遺跡などがあげられる。いずれも江戸時代前半を中心とする遺跡で、本遺跡とも近距離にあり、何らかの関連性も想定されるところである。

新屋敷遺跡の位置する鴻巣宿は、中山道と川越から通じる日光御成街道の交わる県内でも有数の宿場町の一つである。また、『江戸図屏風』では、右隻に街道(日光御成街道または中山道)に面して建てられていた鴻巣御殿が描かれ、当時の中心的な名所の一つとして捉えられていたものと推定される。

鴻巣御殿跡は、新屋敷遺跡の南西約1kmに位置し、旧東照宮跡がその中心部分にあると考えられている。鴻巣御殿は文禄二年(1592)に築かれ、主に将軍家が領内視察や鷹狩りの際に宿泊・休憩に使用したものである。その後は鷹狩り場が将軍家から御三家へと移行したのに伴い、主に御三家などが利用したものとみられている。しかし、明暦三年(1657)の大火を機に鴻巣御殿は大半が取り壊されて、部材は江戸城の修

第3図 奈良・平安時代以降の遺跡等分布図



復に用いられている。この頃から各地に築かれた御殿や茶屋は次第に取り壊され、将軍綱吉の元禄年間になって、残存した関東近郊の御殿などとともに廃止されたものと考えられている。

新屋敷遺跡に関しては、『新編武蔵風土記稿』の小名新屋敷の項に「古へ鴻巣御殿在りし頃、御鷹部屋在りし所」と記されており、鷹狩りに関連した施設が周辺に存在したものとされている。

新屋敷遺跡では、掘立柱建物跡、柵列、溝、井戸からなる遺構が多数検出され、出土遺物から多くは17世紀後半頃につくられたことが明らかになった。遺構は検出状況から遺跡全体の東側部分とみられ、さらに西側には主要な建物群などが配置されていたものと想定

される。建物や溝はいくつかの区画された屋敷地を構成しており、ここに17世紀後半を中心とする何らかの施設があったことを示している。しかも、建物などはやや貧弱であるが、明らかに武士階級が使用したとみられる出土遺物が多数あり、屋敷地の区画ごとに似たような傾向が窺われる。しかし、鷹の飼育などに関連する他の動物遺存体などは検出されておらず、これらの遺構が鷹狩りに直結するものであるかは現時点では難しいが、関連する施設の一部としてみることは可能であろう。いずれにしても今回の調査を含めて検出された新屋敷遺跡の遺構は、「鷹部屋」について伝承の信憑性を少し深めたものと言えよう。

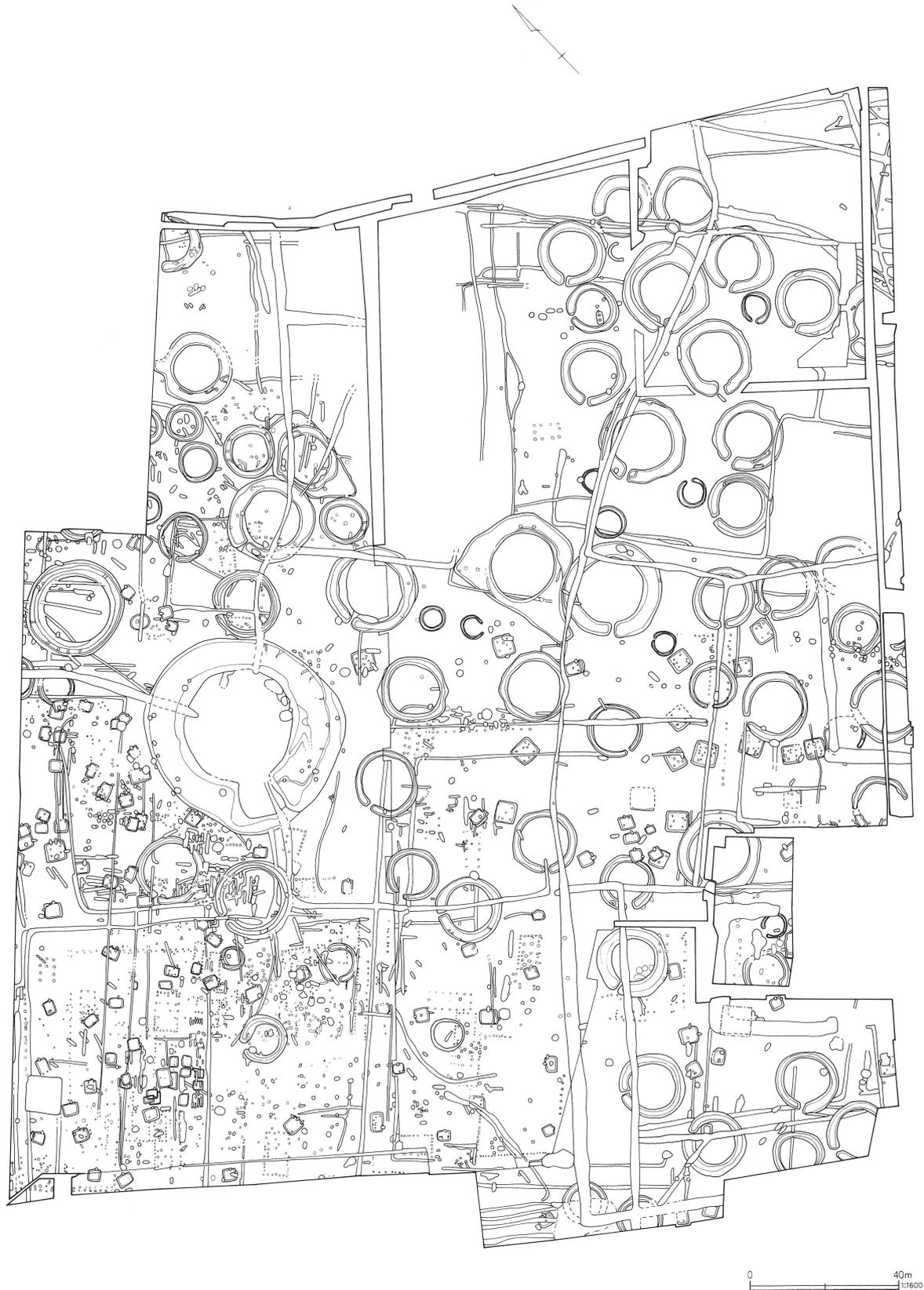
参考文献

- 中島利治 1979 『大山』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第23集 埼玉県教育委員会
山崎 武 1981 『生出塚遺跡』 鴻巣市遺跡調査会報告書第2集 鴻巣市遺跡調査会
山崎 武 1985 『赤台遺跡第1・2・3次調査』 鴻巣市遺跡調査会報告書第5集 鴻巣市遺跡調査会
埼玉県教育委員会 1986 『埼玉県埋蔵文化財調査年報－昭和60年度－』
埼玉県教育委員会 1987 『埼玉県埋蔵文化財調査年報－昭和61年度－』
鴻巣市市史編さん調査会 1989 『鴻巣市史 資料編1 考古』 鴻巣市
富田和夫・細田 勝 1989 『中三谷遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第76集
大塚孝司・寺内正明 1989 『椿山遺跡－第3・4次調査－』 蓮田市文化財調査報告書第13集 蓮田市教育委員会
高崎光司 1992 『新屋敷遺跡B区』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第123集
埼玉県教育委員会 1993 『埼玉県埋蔵文化財調査年報－平成3年度－』
山形洋一 1993 『氷川神社東遺跡 氷川神社遺跡 B-17号遺跡』 大宮市遺跡調査会報告書第42集 大宮市遺跡調査会
田中正夫 1994 『新屋敷遺跡A区』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第140集
金子直行・大谷 徹 1996 『新屋敷遺跡C区』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第175集
吉田 稔 1997 『築道下遺跡I』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第188集
栗岡 潤・大屋道則 1998 『築道下遺跡II』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第199集

周辺の遺跡

1. 新屋敷遺跡
2. 菖蒲城跡
3. 上手遺跡
4. 下栢間遺跡
5. 富士塚前遺跡
6. 加藤氏館跡
7. 阿弥陀堂遺跡
8. 宮前I遺跡
9. 志部遺跡
10. 中妻遺跡
11. 宮山遺跡
12. 茶屋遺跡
13. タタラ山遺跡
14. 閨戸足利遺跡
15. 向原遺跡
16. 提灯木山遺跡
17. 市場I遺跡
18. 諏訪山北遺跡
19. 石戸城跡
20. 諏訪山南遺跡
21. 堀ノ内館跡
22. 下宿遺跡
23. 荒川附遺跡
24. 椿山遺跡・御林遺跡
25. 平塚氷川神社遺跡
26. 谷津下I遺跡
27. ささら遺跡
28. 久台遺跡
29. 大山遺跡
30. 伊奈氏屋敷跡
31. 氷川後I遺跡
32. 平林寺遺跡
33. 東北原遺跡
34. 福田陣屋跡
35. 氷川神社
36. 氷川神社東遺跡
37. 御蔵山中遺跡
38. 中氷川神社

第4図 新屋敷遺跡の調査沿革図



III 遺跡の概要

新屋敷遺跡は、昭和60年に鴻巣市教育委員会による第1次調査が行われたのを契機として、平成7年度までに7次にわたる発掘調査が実施され、これまでに62,000㎡に及ぶ広大な面積が調査されている。

D区の発掘調査は第7次調査にあたり、平成6・7年度に実施された。調査の結果、先土器時代から縄文時代、古墳時代、平安時代、中・近世の多数の遺構が検出され、各時代とも内容の濃い複合遺跡であることが明らかにされた。以下、時代順に調査成果の概要について説明する。

先土器時代は、調査区北側から湾入する埋没谷に面する台地斜面部を中心に3箇所の石器集中と7基の礫群が検出された。石器集中と礫群は重複している場合が多く、大きく3つのグループに分かれる。石器集中は広範囲に漫然と石器が分布していた。

出土した石器群は黒耀石製のナイフ形石器を主体に、角錐状石器、搔・削器、彫器、ドリル、石核等が発見された。

縄文時代は中期後半の住居跡1軒と土壙15基が検出された。住居跡は楕円形の平面形態で、地床炉をもつものである。現状では台地斜面部に単独で分布しているが、隣接する第60号墳の周溝覆土中からはまとまった量の縄文土器が出土しており、本来は台地斜面部を中心に縄文時代の遺構の分布が広がっていたものと想定される。

土壙は中期後半の土器を出土した第420号土壙と14基のTピットが検出された。Tピットは上位段丘面を中心に広く分布している。

古墳時代前期の遺構は、調査区中央の東寄りから住居跡1軒が検出され、C区から広がる当該期の住居跡群の一端が明らかにされた。住居跡は正方形プランで四本柱穴を有する一辺6mほどのものである。

遺物は有段口縁壺、甕、鉢等が少量検出され、五領

式期終末段階に位置づけられる。

古墳時代後期は帆立貝形前方後円墳を含む25基の古墳跡が調査された。これまでの調査成果を踏まえると総数100基を優に越す、元荒川流域最大の古墳群であることが判明した。

帆立貝形前方後円墳の第60号墳以外は、すべて墳丘径10~13mの円墳で、そのほとんどが周溝の一部を掘り残してブリッジを作り出していた。ブリッジは西側を向くものが多く、その周辺からは供献土器や滑石製紡錘車が多数出土している。

出土した土師器は鬼高I式の模倣坏を主体とし、高坏、壺、直口壺、甕などが出土している。他に第60・63号墳からは須恵器の甕や高坏（TK23~47型式併行）が出土しており、古墳の築造時期を示す貴重な資料として注目される。

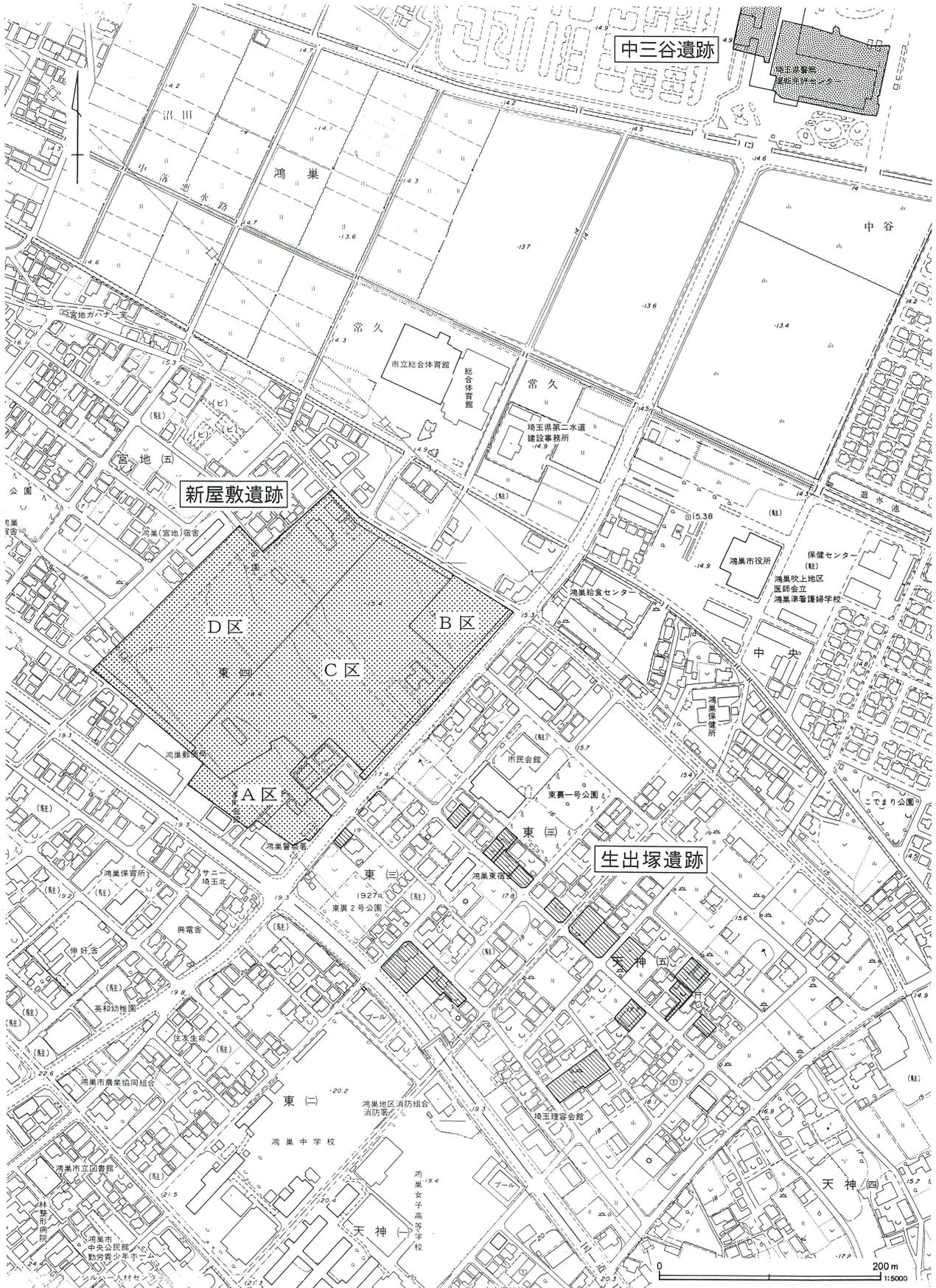
平安時代は上位段丘面を中心に分布する住居跡69軒、井戸3基が調査され、9世紀後半から10世紀前半にかけて営まれた大宮台地北部における中核的な集落の実態が明らかにされた。

中・近世の遺構は掘立柱建物跡18棟、柵列跡13条、井戸、溝、土壙等が検出された。これまでの調査成果から掘立柱建物跡や柵列跡、井戸等によって構成された17世紀後半~18世紀初め頃の屋敷跡と思われる遺構が検出された。

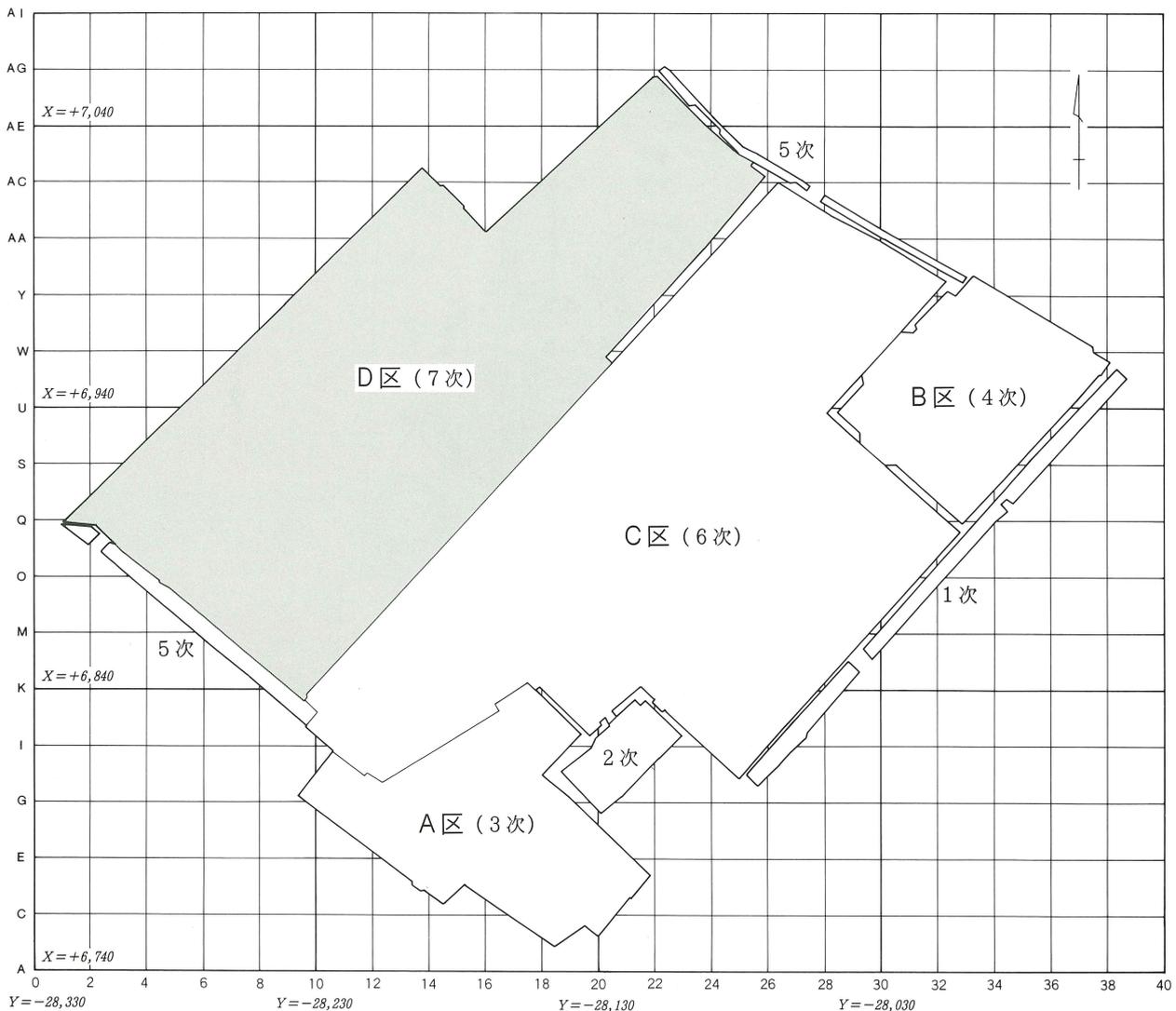
出土遺物は17世紀後半から18世紀前半を中心とした肥前系、瀬戸・美濃系の陶磁器をはじめ、漆椀、かわらけ、鉄製品、古銭等が出土した。

このように新屋敷遺跡は、先土器時代から既に人々が生活の痕跡を残し、その後、縄文時代、古墳時代、平安時代、中・近世の各時代にわたって、ムラとして、古墳群として、さらには屋敷地と性格を大きく変えながら利用されてきたことが、これまでの調査成果により明らかにされている。

第5図 遺跡周辺の地形図



第6図 新屋敷遺跡全体グリッド配置図



発掘主体者

1・2・5次調査：鴻巣市教育委員会

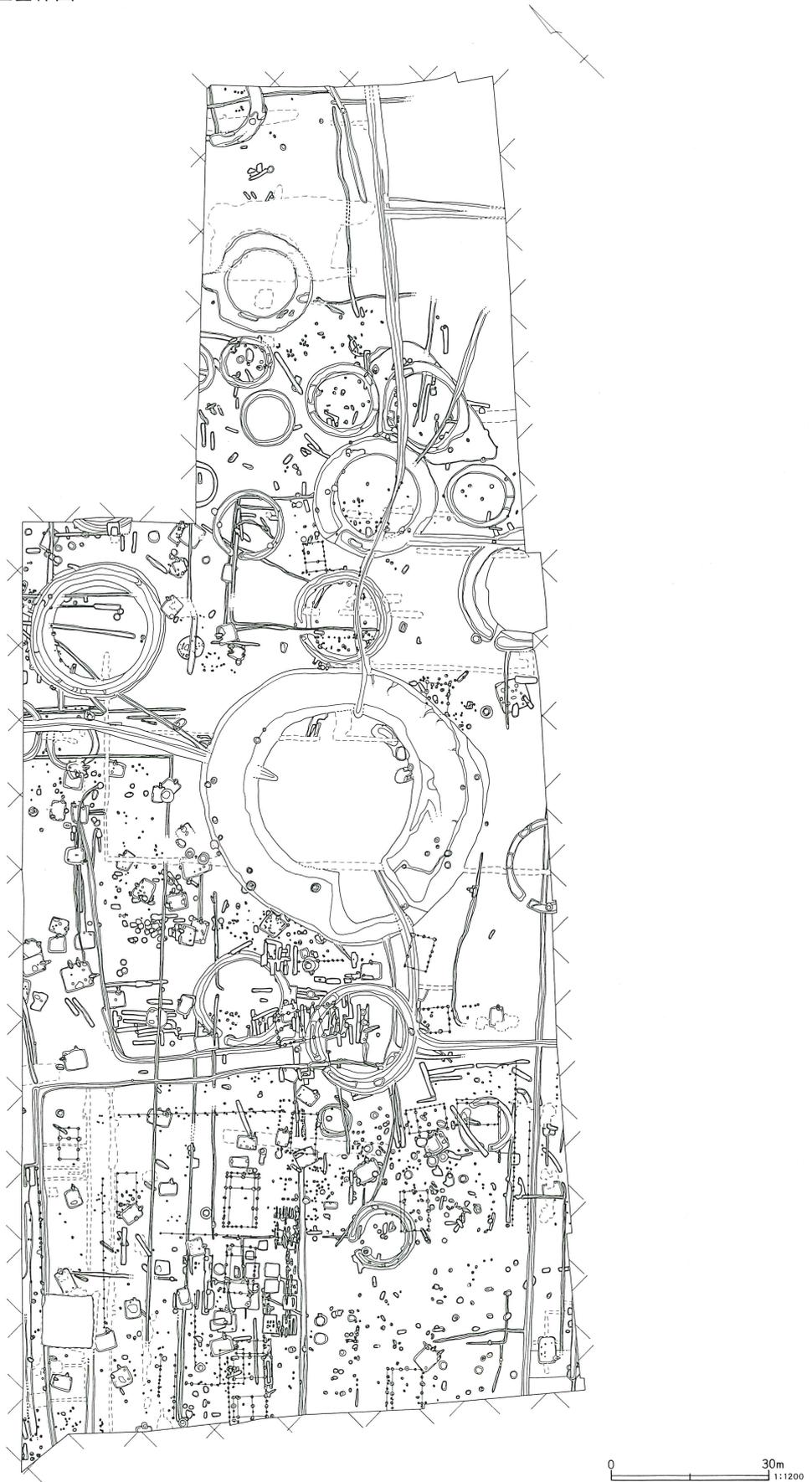
3・4・6・7次調査（A～D区）：財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



新屋敷遺跡の調査

| 調査地点 | 所在地 | 調査期間 | 面積 | 発掘主体者 | 調査原因 | 調査概要 |
|-------------|-----------------|-----------------------|---------|-------------------|-------|--|
| 第1次 | 東4丁目 504-1 | 昭60.8.1 ～昭60.10.2 | 1,200㎡ | 鴻巣市遺跡調査会 | 道路建設 | 旧石器ユニット1、古墳跡3、住居跡3、土壇、溝 |
| 第2次 | 東4丁目 471-3 | 昭62.3.17 ～昭62.5.20 | 1,000㎡ | 鴻巣市遺跡調査会 | 宅地造成 | 古墳跡3、住居跡1、埴輪棺1、構堀、柵列跡、井戸、土壇、地下室、溝 |
| 第3次 (A区) | 東4丁目 384-1 | 平3.6.1 ～平4.3.31 | 6,300㎡ | 埼玉県埋蔵文化財 調査事業団 | 警察署建設 | 古墳跡8、住居跡11、掘立柱建物跡1、井戸、土壇、地下式壇、溝 |
| 第4次 (B区) | 東4丁目 384-1 | 平3.6.1 ～平4.3.31 | 4,500㎡ | 埼玉県埋蔵文化財 調査事業団 | 保健所建設 | 古墳跡8、掘立柱建物跡2、土壇、溝 |
| 第5次 | 東4丁目 384-8 | 平3.12.2 ～平4.2.20 | 1,721㎡ | 鴻巣市教育委員会 | 道路建設 | 住居跡3、掘立柱建物跡2、柱穴列1、井戸、土壇、溝 |
| 第6次 (C区) | 東4丁目 384-1・2 | 平5.4.1 ～平6.7.31 | 25,670㎡ | 埼玉県埋蔵文化財 調査事業団 | 宅地造成 | 石器集中6、礫群10、古墳跡36、埴輪棺1、住居跡38、掘立柱建物跡10、柵列跡12、井戸、土壇、溝 |
| 第7次 (D区) | 東4丁目 384-12 | 平6.7.1 ～平7.9.30 | 22,000㎡ | 埼玉県埋蔵文化財 調査事業団 | 宅地造成 | 石器集中3、礫群7、古墳跡25、住居跡71、掘立柱建物跡18、柵列跡13、井戸、土壇、溝 |

第7図 新屋敷遺跡D区全体図



IV 先土器時代の調査

1. 調査の概要

今回の調査で検出された先土器時代の石器群は、隣接するC区と同じく岩宿II期が主体で、石器集中3箇所、礫群7基が検出された。これにより新屋敷遺跡全体で石器集中9箇所、礫群17基を検出したことになる。また黒耀石製の尖頭器がY-14グリッド付近から単独で出土した。

石器集中及び礫群は、調査区の北端からC区中央部に湾入する埋没谷に面した台地斜面部に3つのグループを形成しながら分布していた。C区の調査成果と考え合わせると、埋没谷の谷頭を取り囲むように幾つかのまとまりをもった石器群が、連続して分布する状況が窺われる。

石器集中7は調査区中央東寄りのU・V-18グリッドに位置し、礫群12の分布と重複する。8点の石器が出土し、器種の内訳はナイフ形石器1、角錐状石器1、搔・削器1、剥片2、碎片3である。石材はすべて黒耀石である。

石器集中8は調査区中央のX・Y-15グリッドに位置し、埋没谷から最も離れた台地部に分布する。礫群13と重複し、76点の石器が出土した。黒耀石のナイフ

形石器2、搔・削器2、彫器1や黒色頁岩の石核等が出土した。

石器集中9は調査区北側のAA・AB-18グリッドに位置し、礫群15・16と分布が重複する。今回の調査では最多の90点の石器を数え、黒耀石のナイフ形石器10、搔・削器2等が出土した。このほかに礫群と重複した状態でナイフ形石器、角錐状石器、ドリル、敲石、磨石、石核等が出土している。

礫群は石器集中と同じく3つのグループに分かれて分布し、調査区中央部東側の礫群11・12、調査区中央部の礫群13、調査区北側の礫群14～17に区分される。礫群の密度は、礫群14以外は全体に散漫に広がっている。礫の総数は820点を数えるが、ほとんどが小礫で、接合する資料は少ない。また、接合関係は礫群内で完結するものがほとんどで、礫群間での接合はほとんどみられなかった。

礫群の石材組成は、チャートが55.3%で最も多く、次いで砂岩が29.0%、安山岩が13.1%となる。この三者で全体の97.4%を占め、ほかにホルンフェルス、メノウ、石英、頁岩等がみられた。

2. 層位

土層の堆積は、C区の基本層序に近似している。

第I層：表土（耕作土）

第IIa層：褐色土 ローム粒子を少量含む

第IIb層：暗褐色土 ローム粒子を少量含む

第III層：暗灰褐色土 黒色土ブロック、白色粒子を多量に含む（As-YP層）

第IV層：黄褐色土 ハードローム層（As-OP2混在）

第V層：暗黄褐色土 白色粒子を多く、赤色粒子を少量含む

（IV・V層から石器は出土する）

第VI層：黄褐色土 白色粒子を多く含む

（IV・V層は色調が暗く、黒色帯と思われる）

第VIIa層：暗黄褐色土 白色粒子を多く含む、ブロック状になる部分もあり、赤色粒子を少量含む

第VIIb層：暗黄褐色土 白色粒子が多く混入、黄褐色ブロックを含む

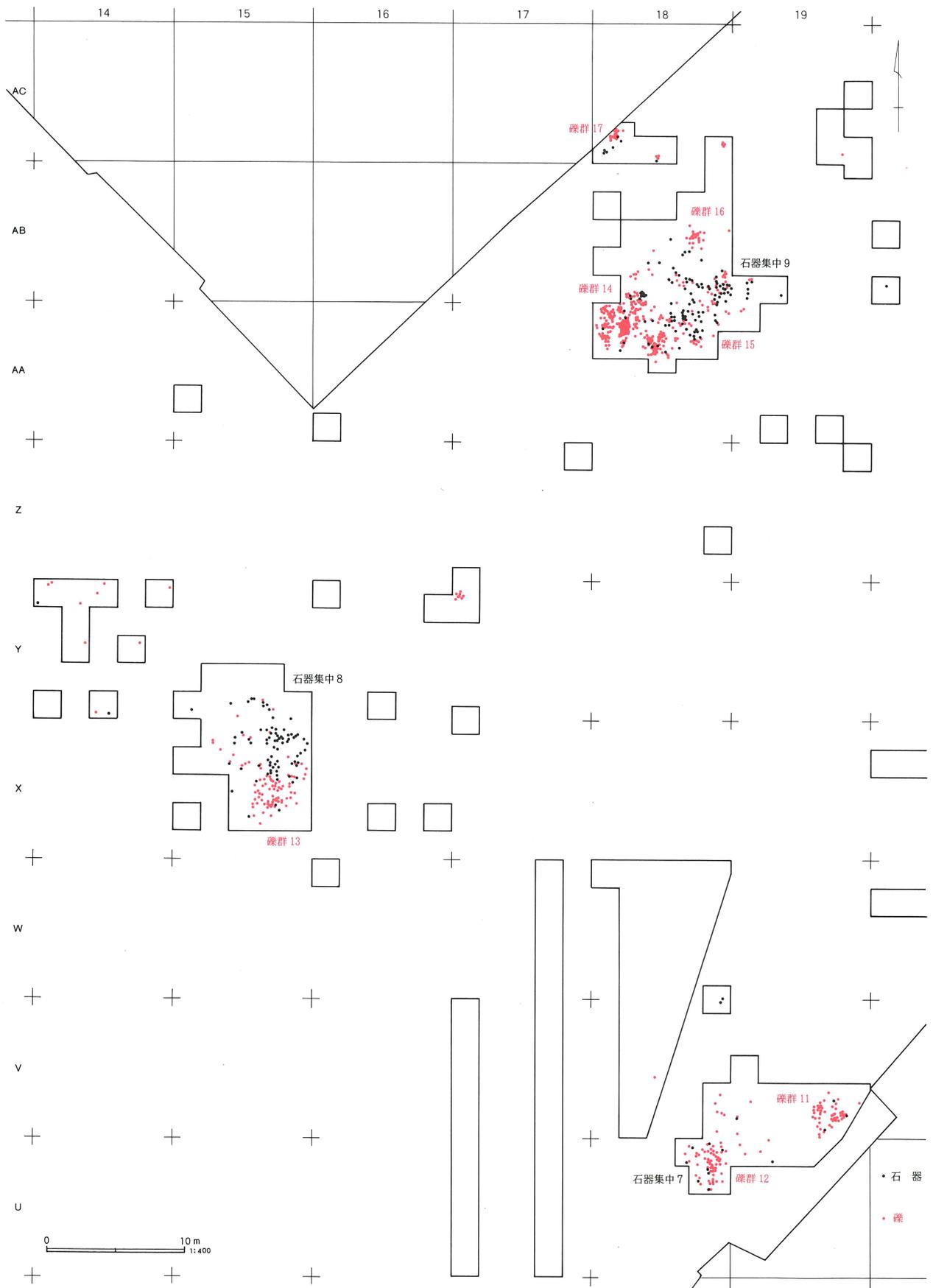
第VIII層：褐色土 赤色粒子、白色粒子、褐色ブロックを含む

第IX層：暗褐色土 赤色粒子を多く含む
（VIII・IX層は黒色帯）

第X層：明黄褐色土 粘性が強い

『新屋敷遺跡C区』（事業団報告書第175集）より転載

第 8 図 先土器時代調査区及び石器・礫分布図



器種組成表

| | ナイフ 形石器 | 角錐状 石器 | 搔・削器 | ドリル | 彫器 | 尖頭器 | 石核 | 剥片 | 碎片 | ブランティン グチップ | 敲石 | 磨石 | 合計 |
|-------|------------|-----------|------|-----|----|-----|----|----|----|----------------|----|----|-----|
| 石器集中7 | 1 | 1 | 1 | | | | | 2 | 3 | | | | 8 |
| 石器集中8 | 2 | | 2 | | 1 | | 2 | 26 | 43 | | | | 76 |
| 石器集中9 | 10 | | 2 | | | | 3 | 29 | 45 | | | 1 | 90 |
| 合計 | 13 | 1 | 5 | 0 | 1 | 0 | 5 | 57 | 91 | 0 | 0 | 1 | 174 |

| | ナイフ 形石器 | 角錐状 石器 | 搔・削器 | ドリル | 彫器 | 尖頭器 | 石核 | 剥片 | 碎片 | ブランティン グチップ | 敲石 | 磨石 | 合計 |
|-------|------------|-----------|------|-----|----|-----|----|----|----|----------------|----|----|-----|
| U-19 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| V-18 | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| V-19 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | | 4 |
| W-18 | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| X-14 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 2 |
| X-15 | | | | | | | | 2 | 2 | | | | 4 |
| Y-14 | | | 1 | | | 1 | | 2 | | | | | 4 |
| Y-15 | | | | | | | | 2 | | | 1 | | 3 |
| AA-18 | 3 | | | 1 | | | | 3 | 2 | | | 2 | 11 |
| AB-18 | | | 1 | | | | 2 | 3 | 4 | | | 2 | 12 |
| AB-19 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| AB-20 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| AC-18 | 1 | | | | | | | | 5 | | | 1 | 7 |
| その他 | 6 | 2 | 6 | 1 | | | 7 | 35 | 28 | 2 | | | 87 |
| 合計 | 12 | 3 | 8 | 2 | 0 | 1 | 9 | 51 | 45 | 2 | 1 | 5 | 139 |

石材組成表

| | 黒曜石 | ガラス質 黒色安山岩 | 黒色頁岩 | 珪質頁岩 | 頁岩 | チャート | ホルンフェルス | シルト岩 | 緑色岩 | 安山岩 | 合計 |
|-------|-----|---------------|------|------|----|------|---------|------|-----|-----|-----|
| 石器集中7 | 8 | | | | | | | | | | 8 |
| 石器集中8 | 63 | | 7 | | | 6 | | | | | 76 |
| 石器集中9 | 82 | | | | | 4 | 2 | 1 | | 1 | 90 |
| 合計 | 153 | 0 | 7 | 0 | 0 | 10 | 2 | 1 | 0 | 1 | 174 |

| | 黒曜石 | ガラス質 黒色安山岩 | 黒色頁岩 | 珪質頁岩 | 頁岩 | チャート | ホルンフェルス | シルト岩 | 緑色岩 | 安山岩 | 合計 |
|-------|-----|---------------|------|------|----|------|---------|------|-----|-----|-----|
| U-19 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| V-18 | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| V-19 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | 4 |
| W-18 | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| X-14 | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| X-15 | 1 | | | | 1 | 2 | | | | | 4 |
| Y-14 | 4 | | | | | | | | | | 4 |
| Y-15 | 2 | | | | | | | | 1 | | 3 |
| AA-18 | 8 | | 1 | | | | | | | 2 | 11 |
| AB-18 | 9 | | | | | | 1 | | | 2 | 12 |
| AB-19 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| AB-20 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| AC-18 | 6 | | | | | | | | | 1 | 7 |
| その他 | 81 | | | 1 | | 5 | | | | | 87 |
| 合計 | 118 | 1 | 4 | 1 | 1 | 7 | 1 | 0 | 1 | 5 | 139 |

3. 石器集中

D区は石器集中3箇所が検出された。それぞれの石器集中は40m前後の距離にあり、礫群と緊密な関係がみられる。

石器集中7 (第9図) U18-22グリッドを中心に南北3m、東西2.5mの範囲に散漫に分布し、礫群12と一部重複する。礫群11が北東側に近接している。石器の総数は8点と少ないが、D区から出土した角錐状石器2点が本石器集中及び礫群11から検出されている。石材はすべて黒耀石が使われている。

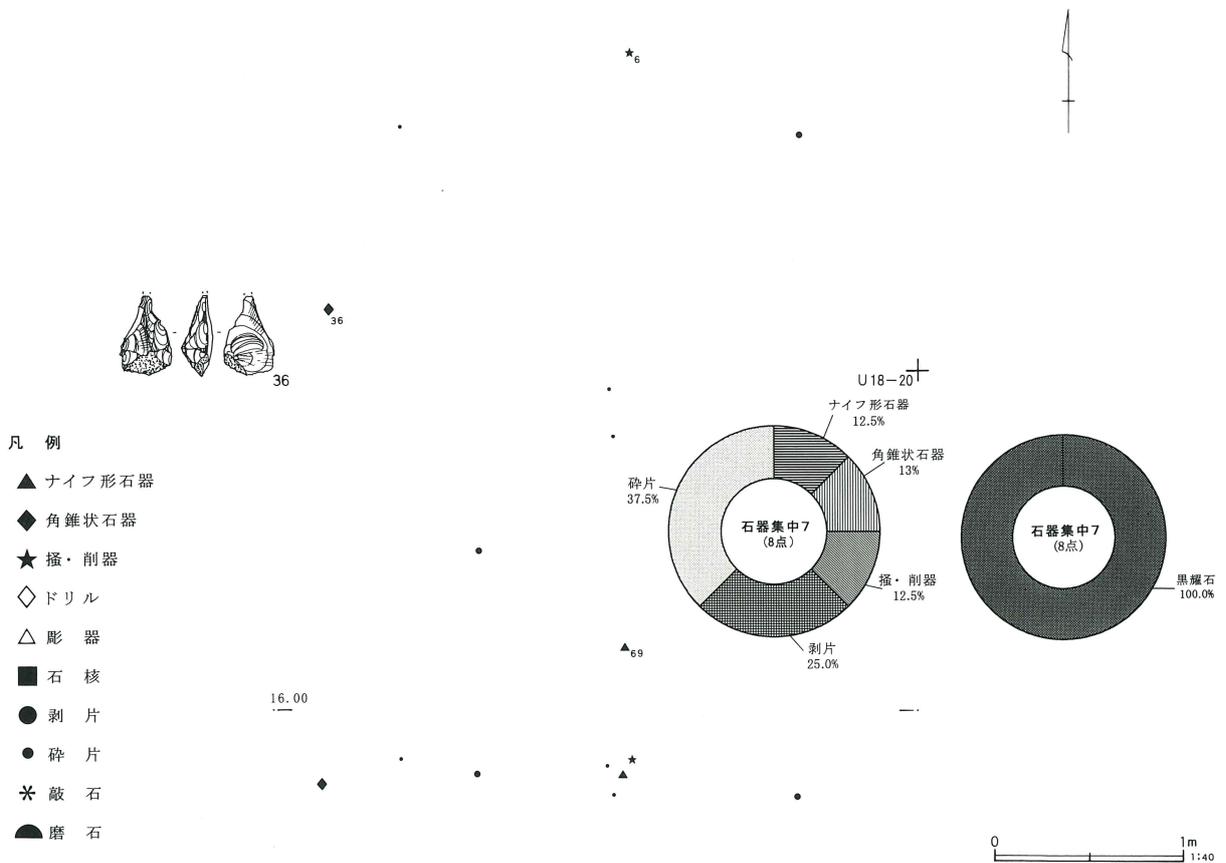
石器集中8 (第10図) X15-24グリッドを中心に南北6m、東西6mの範囲に分布する。礫群13が南側に一部重複している。石器は総数76点と石器集中9と比べ、それほど差がないが、製品の数には明らかな違いがある。出土器種は彫器及び彫器のブランクになると思われるものと、西側に少し離れて敲石が出土している。石器

石材は黒耀石を主体に、黒色頁岩とチャートが用いられている。

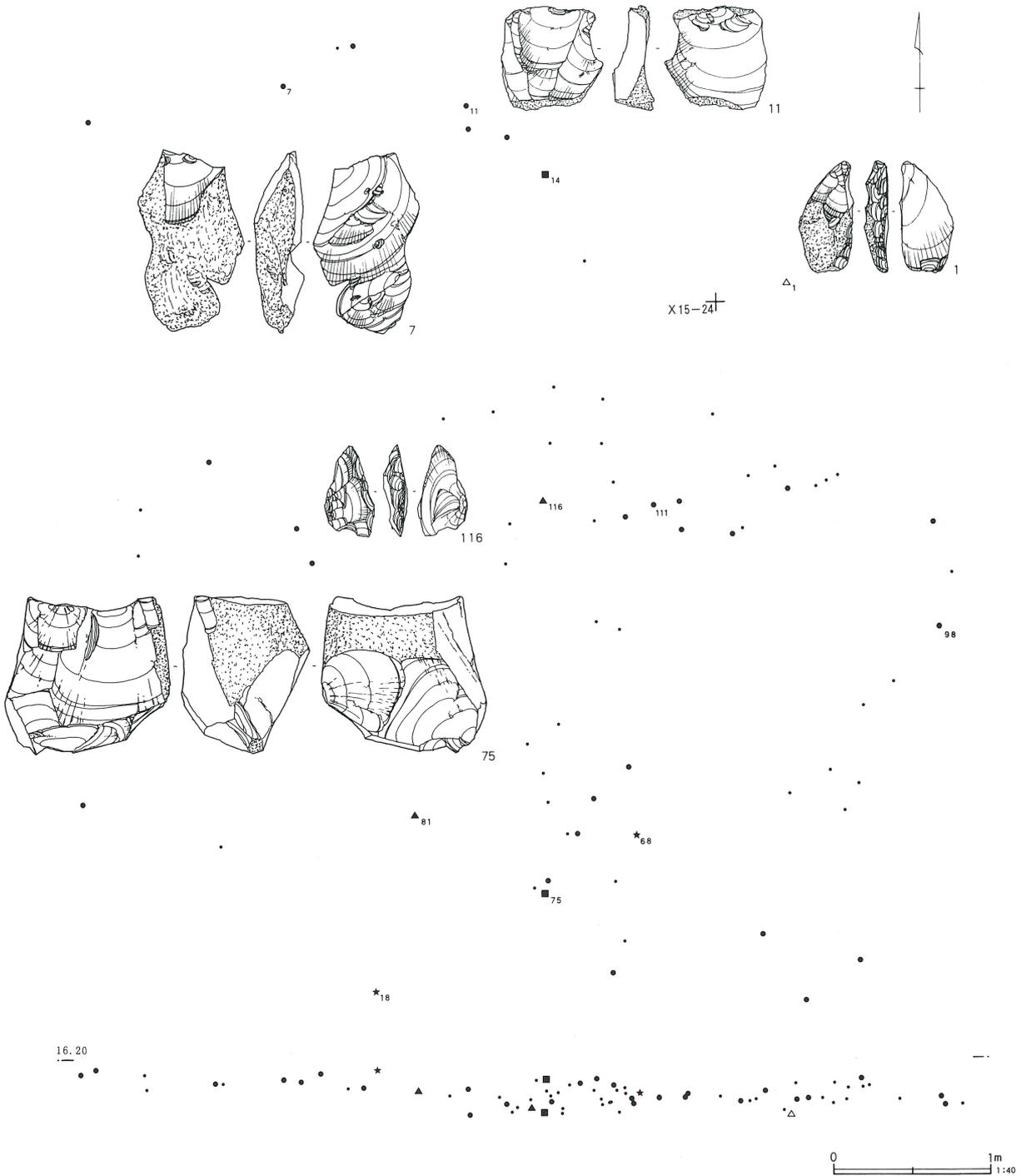
石器集中9 (第11図) AB18-15グリッドを中心に南北6m、東西6mの範囲にまとまっているが、東側に一部重複する礫群14及び南側に一部重複する礫群15の中から石器が検出されている。また、北側に少し離れる礫群17の範囲からもナイフ形石器1点が検出されている。

石器の総数は90点で、器種組成はナイフ形石器10点、搔・削器2点、磨石1点とD区の中心的な存在である。また、一部重複する礫群14・15の中からもナイフ形石器、磨石等が検出されており、本石器集中の広がりや大きさを捉えるべきかもしれない。石器石材は黒耀石を主体にチャート、ホルンフェルスが少量用いられている。

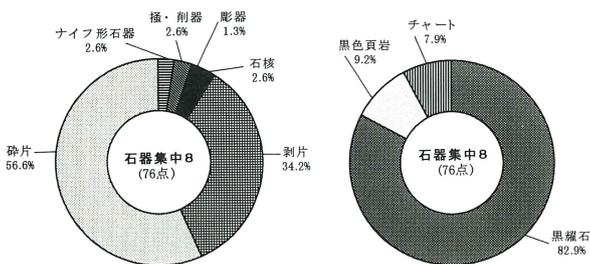
第9図 石器集中7



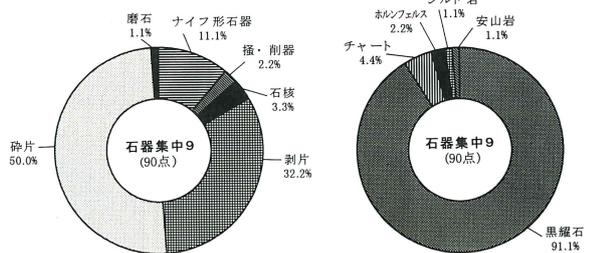
第10図 石器集中8



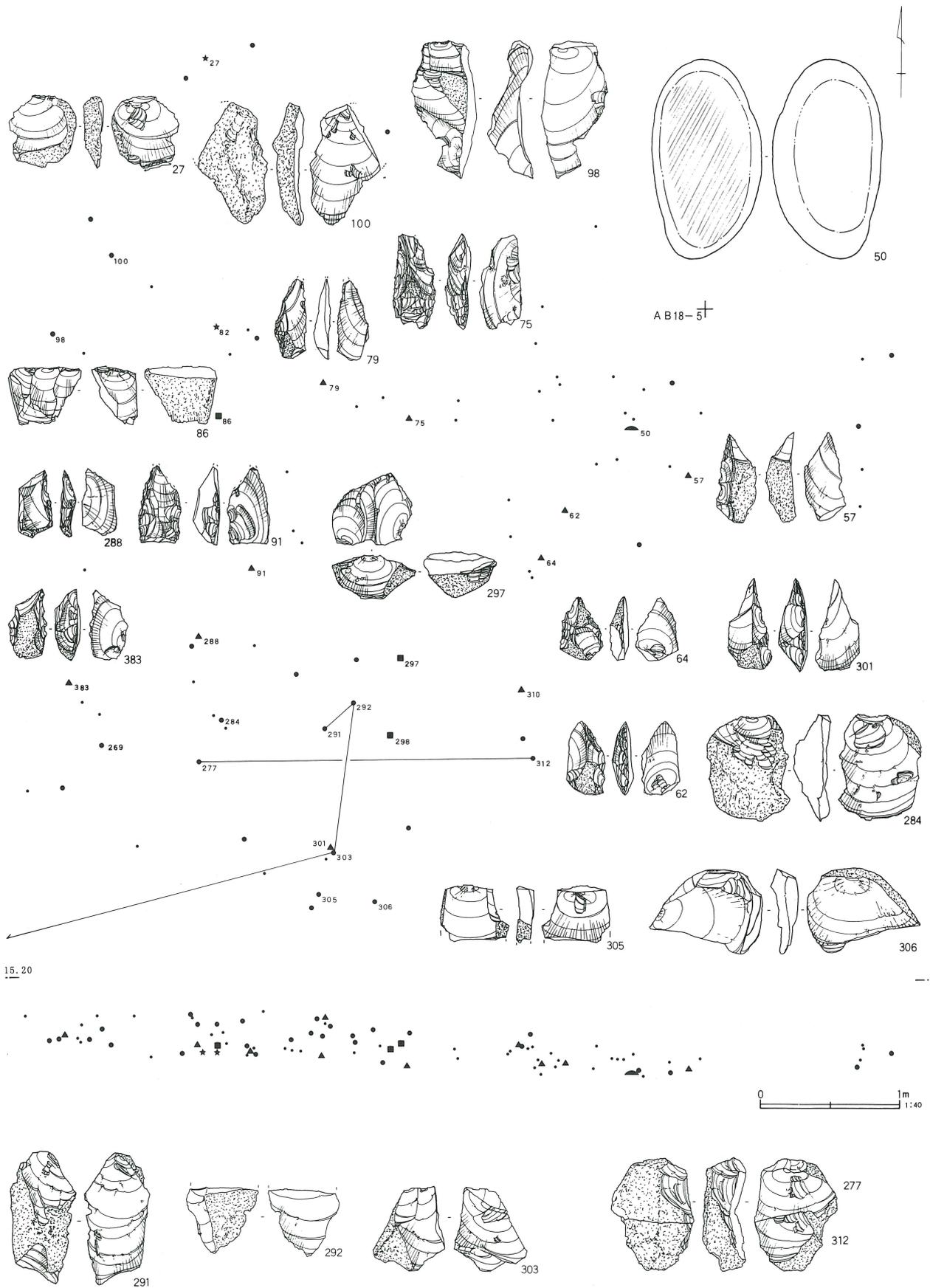
石器集中8



石器集中9



第11图 石器集中 9



15. 20

4. 出土石器

新屋敷遺跡D区から検出された石器総数は313点で、その内、石器集中から174点、礫群等のグリッドから52点、古墳の周溝等の覆土から87点が検出されている。古墳等のプライマリーな状態を離れているものも含め、検出された範囲が限定されていることから、ほとんどが(尖頭器を除いて)同一時期のものと思われる。器種の組成については一覧表に記載したので、以下個別の器種の説明を行う(第12～19図)。

ナイフ形石器(1～20) 石器集中から13点、グリッドから12点の合計25点のナイフ形石器が検出された。そのうち欠損のため全体の形状が不明確なものを除いた20点を図示した。石材は古墳の周溝から検出された15を除くとすべて黒耀石が用いられている。

ナイフ形石器の形態は、先端が尖り基部が比較的丸くなる1～15をa類、台形状となり刃部が幅狭で器軸に直交する16～20をb類に大別できる。

a類) 形態的には多様であるが、幾つかの視点から特徴を観察してみる。素材剥片は縦長剥片と横長剥片(幅広剥片)の区別が不明確な部分もあるが、比較的縦に用いる1～4、7、9～15と横に用いられた5、6、8に分けられる。

縦長剥片を素材とするもの。基部方向からの剥片を素材とするものは2、3、4、11～13の6点である。打面を残すものは、原石面を打面とする3、13と剥離面を打面とする4、11、12があり、打面を除去しているのは2だけである。

先端方向からの剥片を素材としているものは1、7、9、10、14の5点ですべて打面は除去されている。

横長(幅広)剥片を素材とするものは、素材剥片が右側縁方向から剥離の5と、左側縁方向からの6、8に分けられる。打面は除去した5、6と原石面の打面を残す8に分かれる。

外形は、左右対称で基部が丸くなるものは1、2、7、11、13の5点がある。両側縁が平行し刃部は偏刃状になるもの3、4、5、6の4点で、内5、6は横長(幅広)

剥片を素材としている。先端が尖頭状になるもの8～10、12の4点で、内8が横長(幅広)剥片を素材としている。平行四辺形となる15は石材がチャートで、出土状況が古墳周溝覆土であるため、同一時期のものであるか疑問である。

刃部は右刃が5、8、9、13、15、左刃が1～4、6、7、10、11、12、14である。

b類) 外形は長方形となる16、18、20と三角形の17、19の2つに分かれる。素材剥片は右側縁方向からの17、18と左側縁方向からの16、19、20がみられる。刃部は右刃が16、17で左刃が18～20である。

角錐状石器(21～24) 21は先端を若干欠損する。外形は最大幅が基端部付近にあり、左右対象で三角形である。横断面は基部付近が台形、先端部は三角形を呈している。

22は先端部を欠損する。外形は基端部が僅かに尖り、左右対称である。調整加工は右側縁が規格的な剥離で丁寧に作られているのに対し、左側縁は1回の剥離によって大まかに作られ、細かい剥離によって整えられている。横断面は基部付近が台形、先端が三角形を呈している。

23は先端部を若干欠損する。上の2点と比べると作りは粗い。横断面は三角形を呈している。

24は正面に原石面、裏面に主要剥離を大きく残し、調整加工は右側縁の一部に施されている。角錐状石器の未製品と思われる。

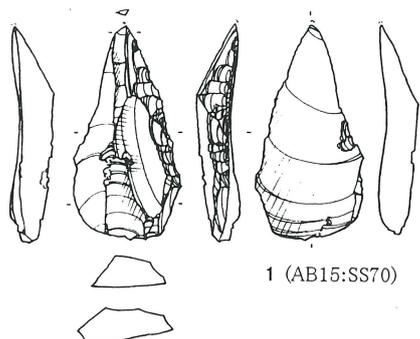
ドリル(25～26)

25は打面部を取り除くように、裏面から正面に調整剥離を施し、錐部を作り出している。

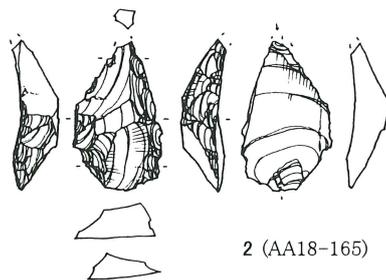
26は正面に原石面残した剥片の打面部を除去し、素材剥片を横に用いて、端部に僅かに錐部を作り出している。

彫器(27) 正面下半分に原石面を残し、右側縁に調整加工が施されている。彫刀面は左側縁に基部の中段まで施す。彫器と分類したのはこの1点のみであるが、

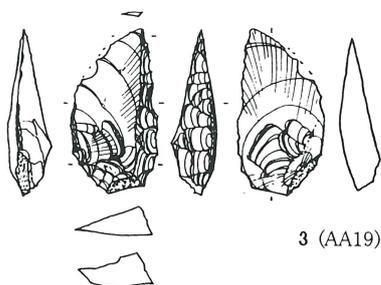
第12図 石器実測図(1)



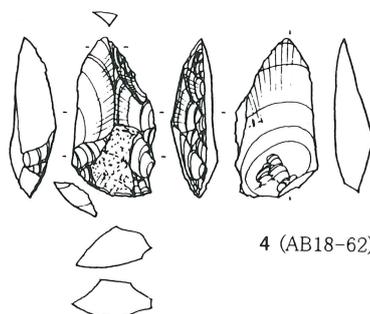
1 (AB15:SS70)



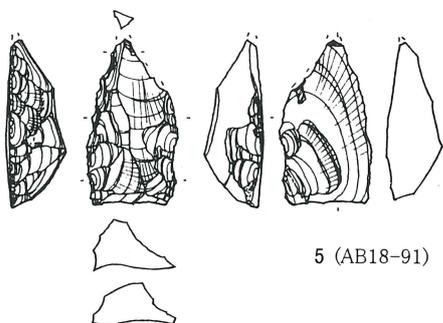
2 (AA18-165)



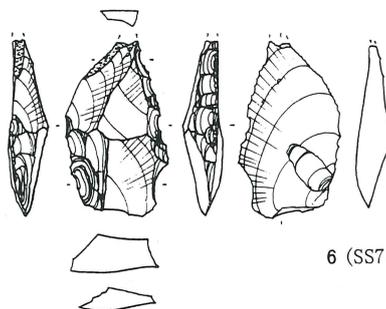
3 (AA19)



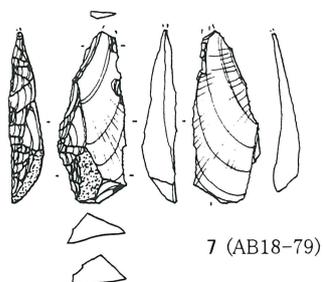
4 (AB18-62)



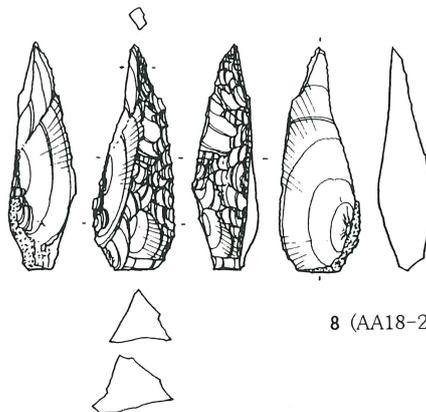
5 (AB18-91)



6 (SS72)



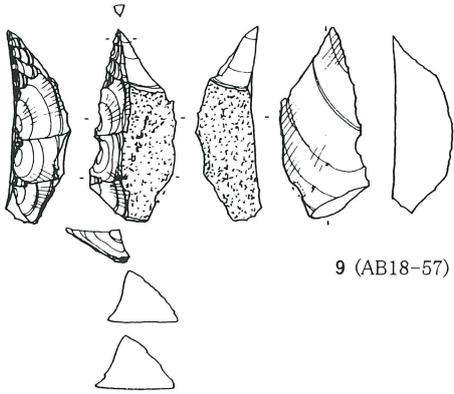
7 (AB18-79)



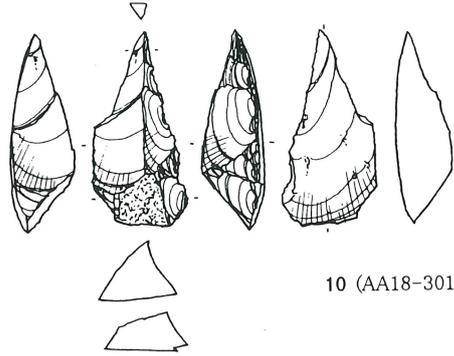
8 (AA18-241)



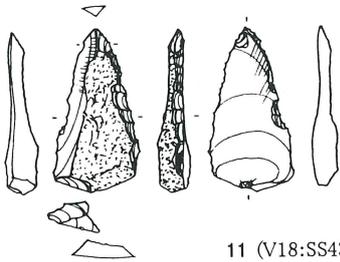
第13図 石器実測図(2)



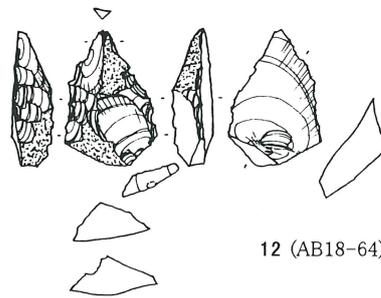
9 (AB18-57)



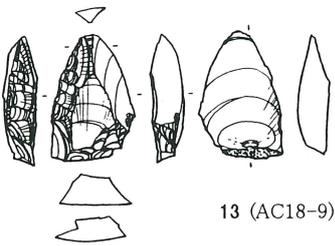
10 (AA18-301)



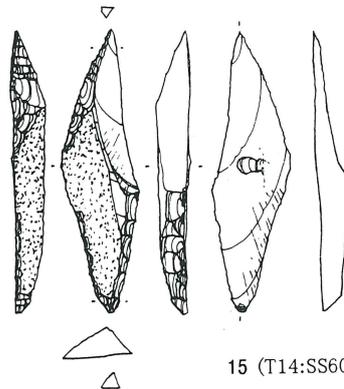
11 (V18:SS43)



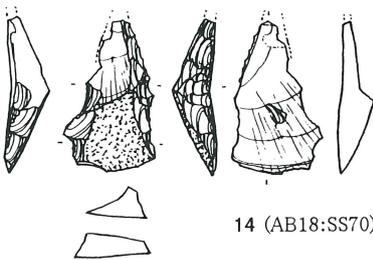
12 (AB18-64)



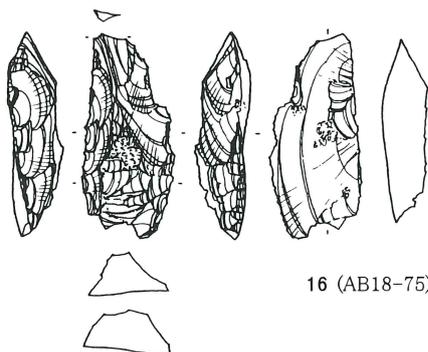
13 (AC18-9)



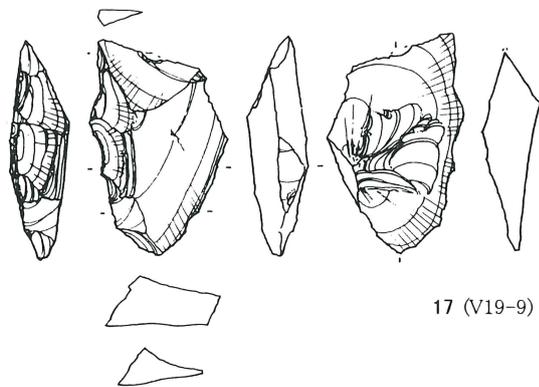
15 (T14:SS60)



14 (AB18:SS70)



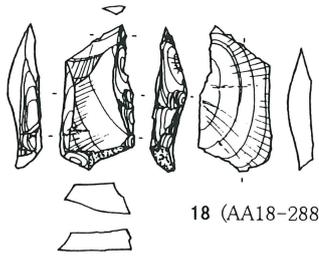
16 (AB18-75)



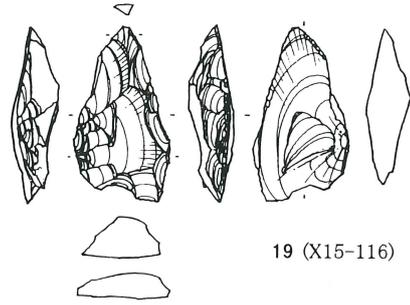
17 (V19-9)



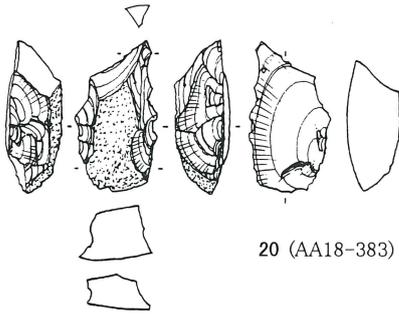
第14图 石器实测图(3)



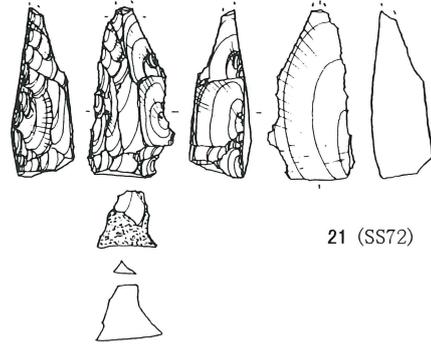
18 (AA18-288)



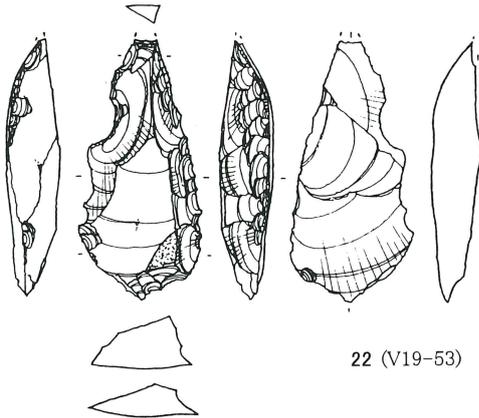
19 (X15-116)



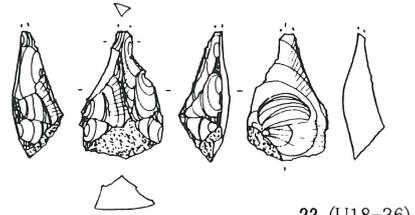
20 (AA18-383)



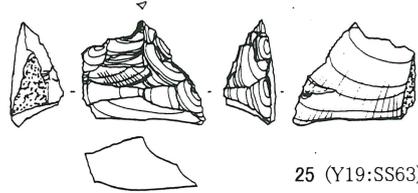
21 (SS72)



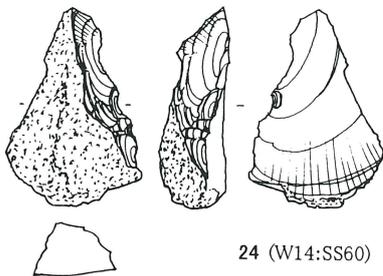
22 (V19-53)



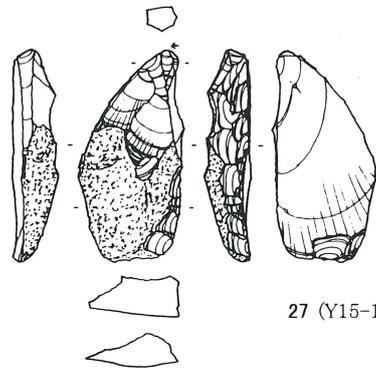
23 (U18-36)



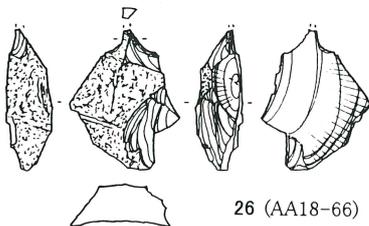
25 (Y19:SS63)



24 (W14:SS60)



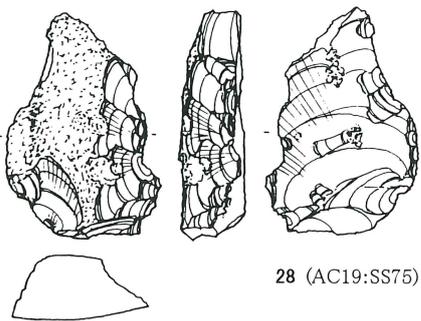
27 (Y15-1)



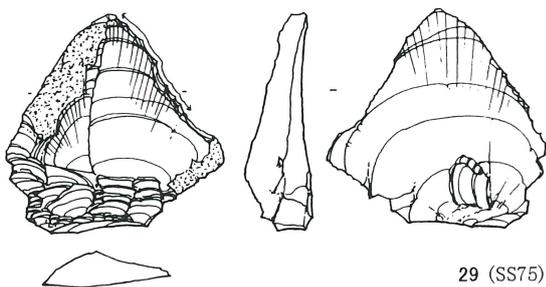
26 (AA18-66)



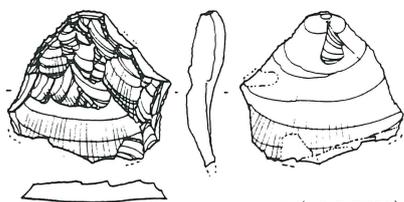
第15图 石器实测图(4)



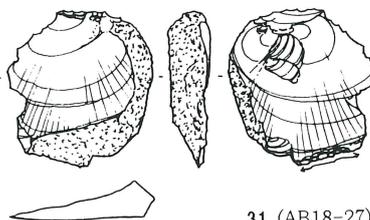
28 (AC19:SS75)



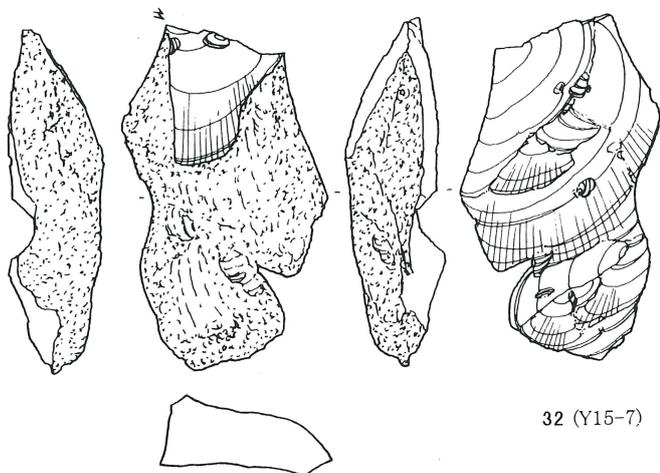
29 (SS75)



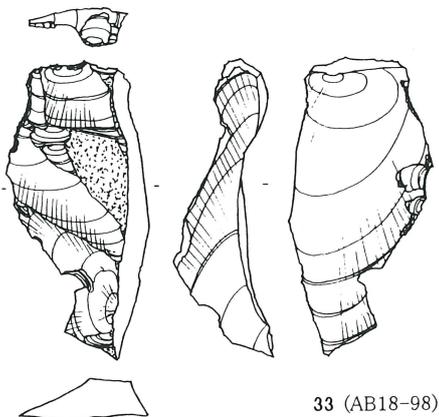
30 (W13:SS60)



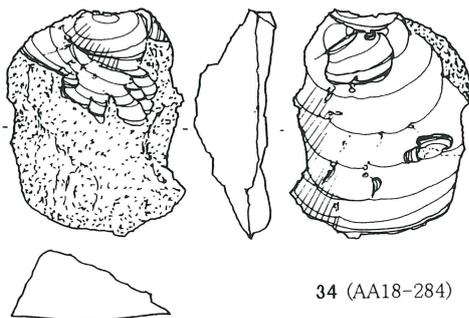
31 (AB18-27)



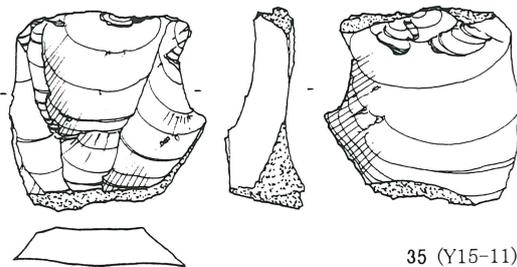
32 (Y15-7)



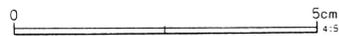
33 (AB18-98)



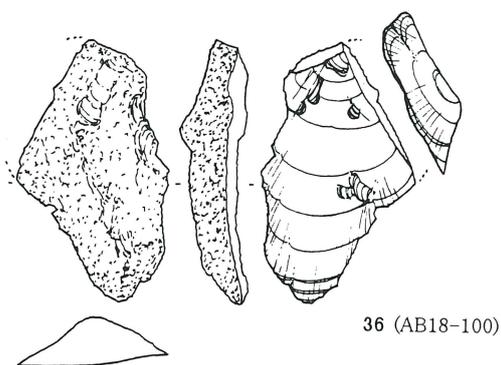
34 (AA18-284)



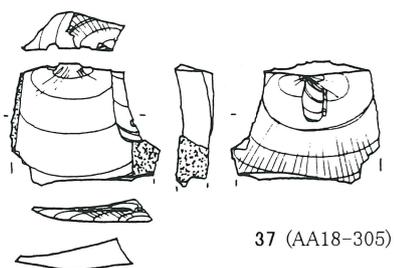
35 (Y15-11)



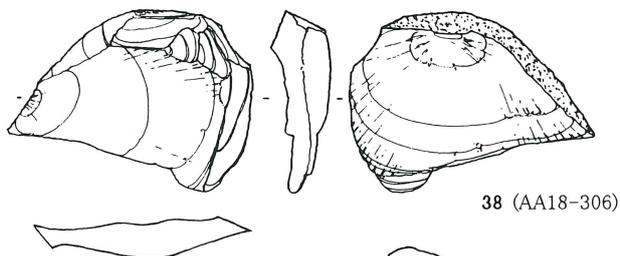
第16图 石器实测图(5)



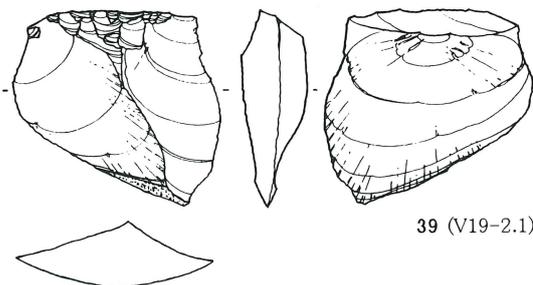
36 (AB18-100)



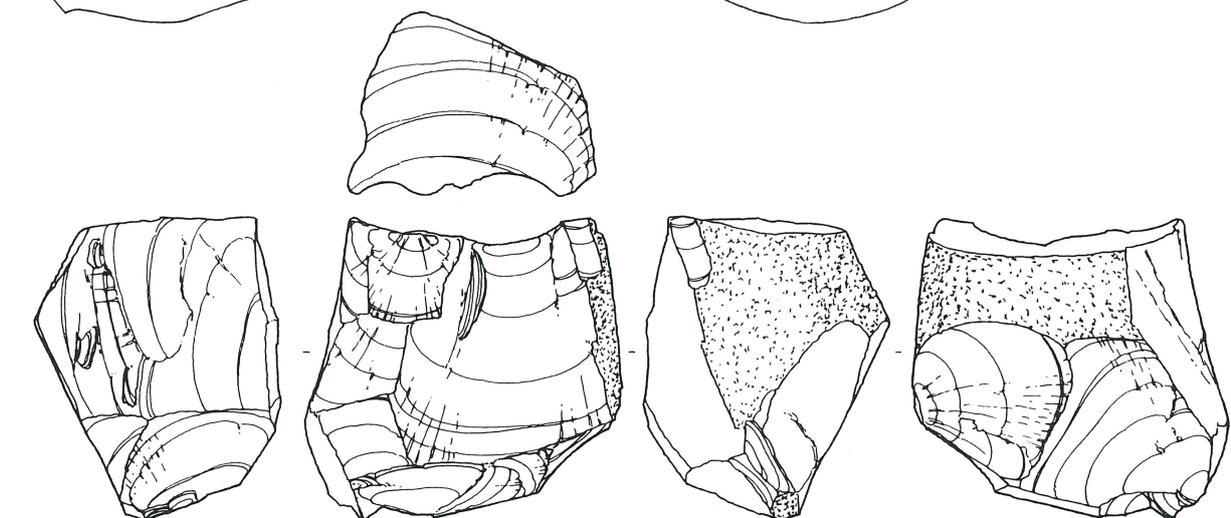
37 (AA18-305)



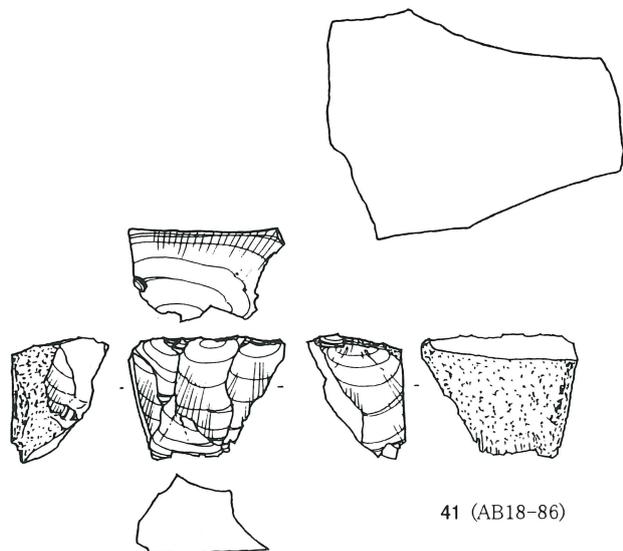
38 (AA18-306)



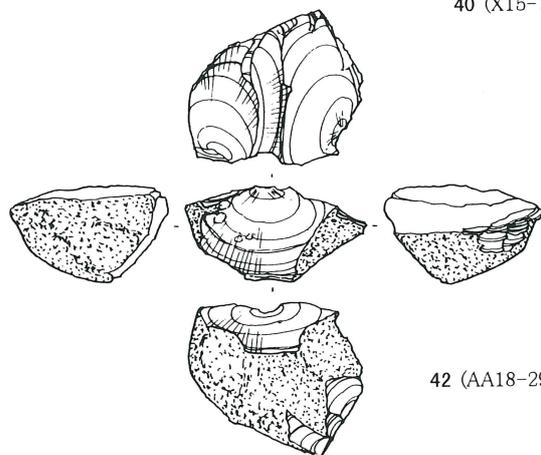
39 (V19-2.1)



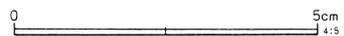
40 (X15-75)



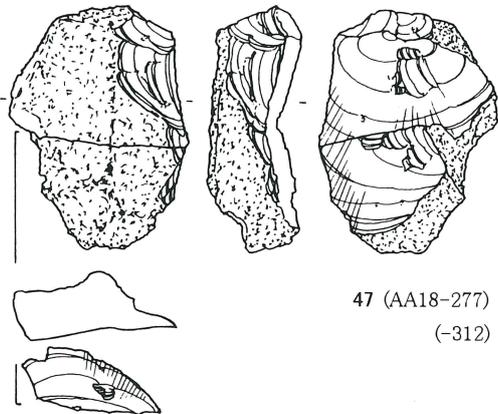
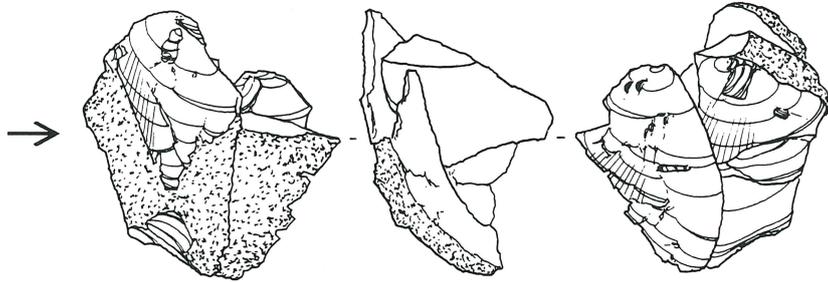
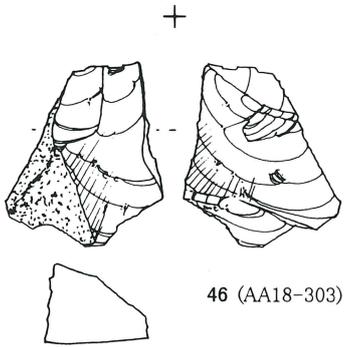
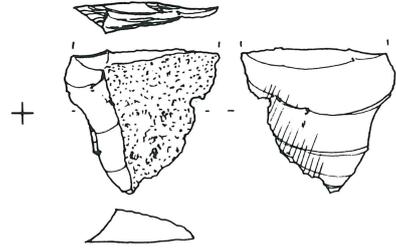
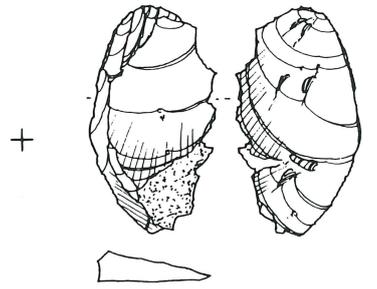
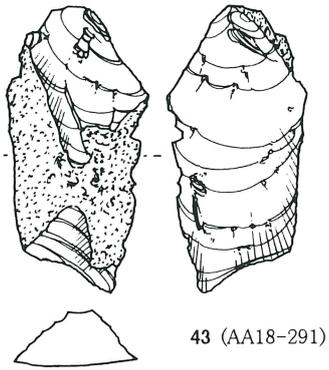
41 (AB18-86)



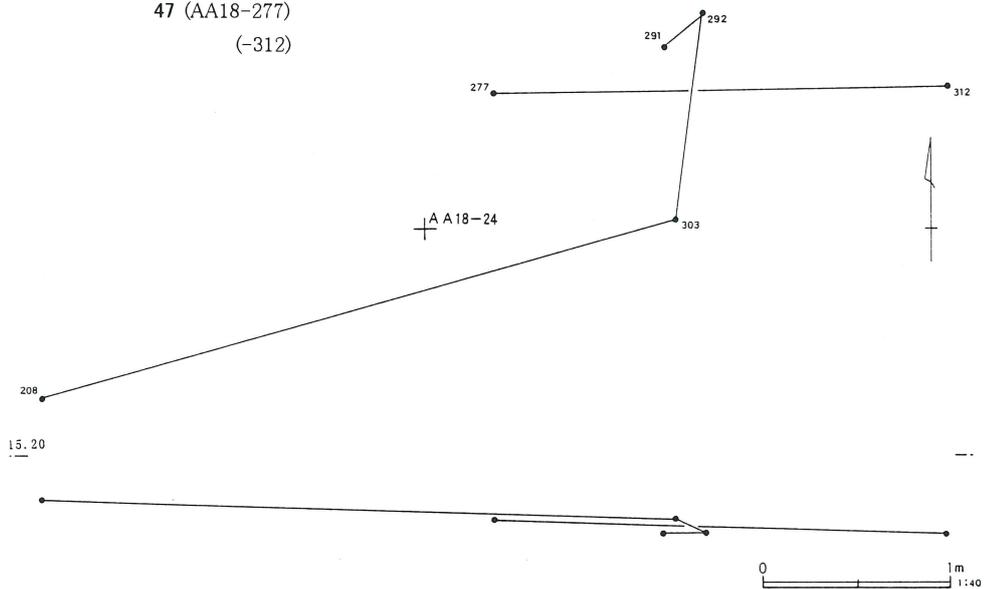
42 (AA18-297)



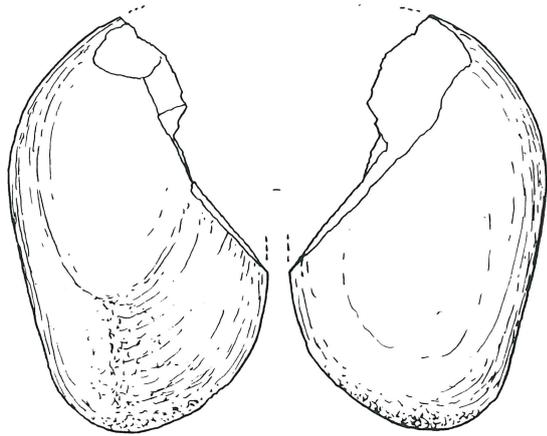
第17图 石器実測図(6)



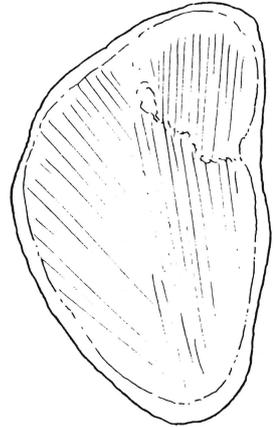
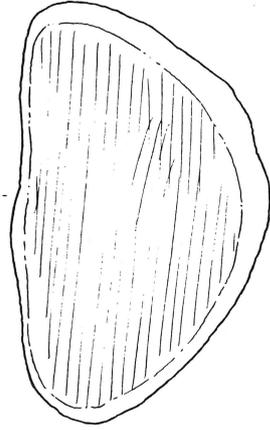
0 5cm 4:5



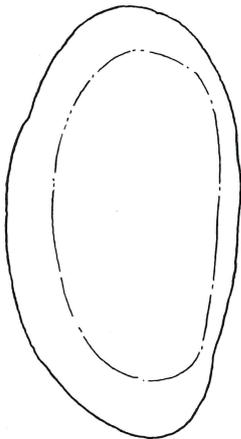
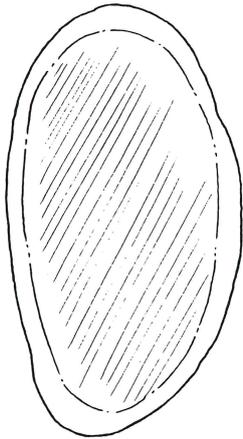
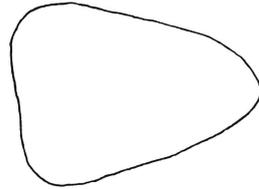
第18図 石器実測図(7)



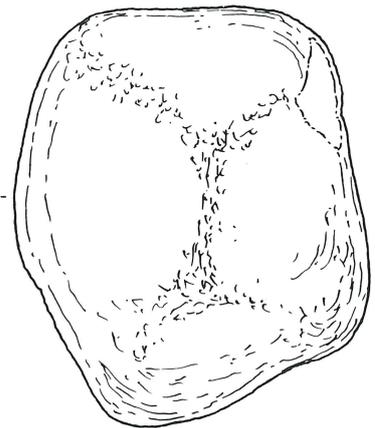
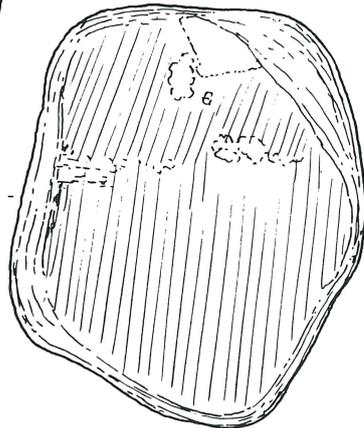
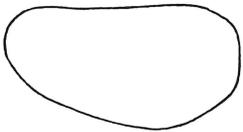
48 (Y15-15)



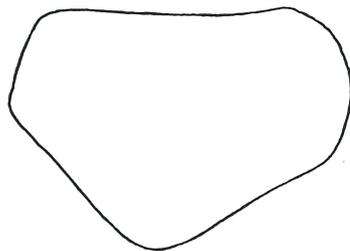
49 (AA18-118)



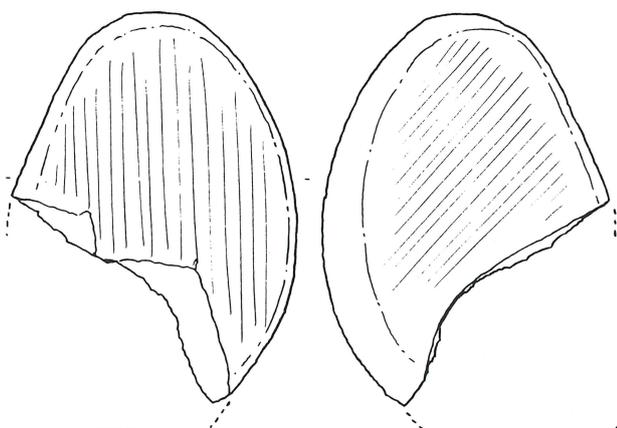
50 (AB18-50)



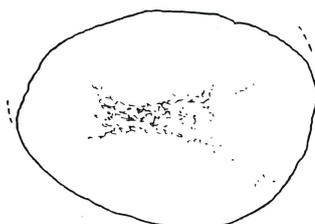
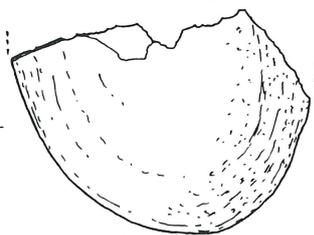
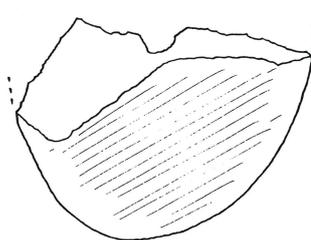
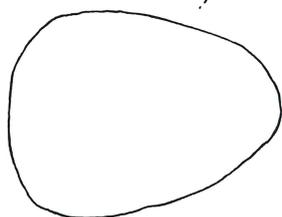
51 (AA18-222.1)



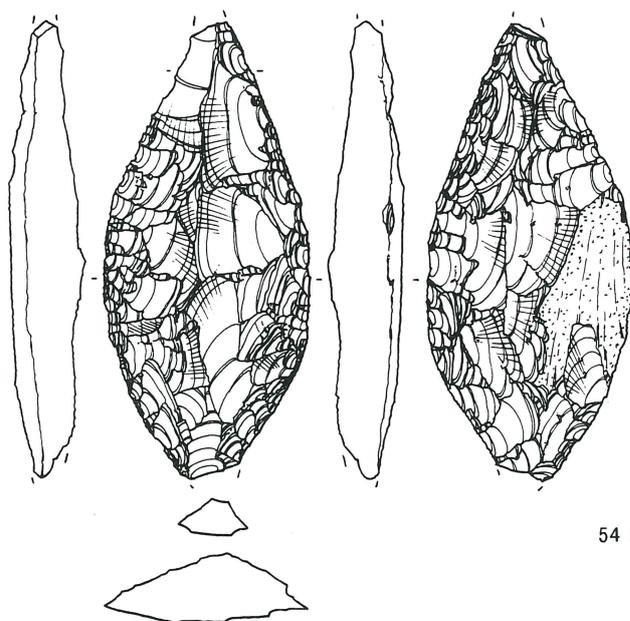
第19図 石器実測図(8)



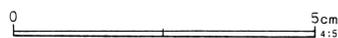
52 (AB18-125)



53 (AB18-126)



54 (Y14)



32は左側上縁から小さな槌状剥離が施されており、彫
刀面打面の作出を意図したものかもしれない。

石核 (40~42) 石核は剥片類に対し点数が少ない。
また、石核と分類したものは最終的な残核と思えるほ
ど、小さく形状が不整形であるものが目立つ。比較的
形状の整ったものを図示した。

40は黒色頁岩製の大型の石核である。打面は単剥離
面で作業面を正面としている。剥離された剥片は幅広
の縦長剥片になると思われる。

41は裏面に原石面を残し、作業面は正面に限定して
いる。打面は単剥離面で作業面の状況から小形の縦長
剥片を連続して作出していたと思われる。

42は円礫を2つに分割し、分割面を打面に横広剥片
を剥がしている。ナイフ形石器等の素材となった剥片
類は、この様な石核から取られたものが主に用いら
れたと考えられる。

剥片 (32~39、43~47) 剥片は102点、碎片は136点
が検出され、石器組成の中で占める割合は76%である。
主体を占める黒曜石は、剥片と分類したのもも小形の
ものが多く、碎片の区分は難しかった。図示したもの
は、比較的大形で形状の整ったものに限ったため、長
軸が1:1から縦長状のものが多くなったが、小形の

5. 器種別分布

D区から検出された石器群は、石器集中を中心に礫
群及び周辺のグリッドから出土している。また、石器
集中及び礫群は、約40mの距離で3箇所に分けるこ
とができる。石器集中7と礫群11・12をグループa、石器
集中8と礫群13をグループb、石器集中9と礫群
14~17をグループcとして検討する。

ナイフ形石器 ナイフ形石器は25点で、D区の主体
的な器種である。25点の内、プライマリーな状態で19
点、残りの6点は古墳の周溝等から検出されている。
形状の分かるものは実測図を掲載しているため、その
分類にしたがって、分布状況を観察する。

a類は11点と点数的にまとまっているが、すべてグ
ループcからの出土である。

ものは幅広の剥片が目につく。

接合資料 (43~47) 接合資料は2例のみであった。
いずれも石器集中9と近接する礫群内で完結してい
る。43~46は正面に原石面を残す剥片の接合で、縦長
剥片を連続的に剥離している。原石面の状況から垂角
礫に近い原石が用いられたと思われる。

47は正面に原石面を大きく残す厚手の剥片が、2つ
に欠損した接合例である。

敲石 (48) 上半部の一部を欠損するが、拳大の楕円
礫が用いられており、長軸の一端に僅かな敲打痕がみ
られる。D区の敲石はこの1点のみで、出土状況が、
石器集中から少し離れて単独で出土しているなど興味
深い。

磨石 (49~53) 拳大の楕円礫が用いられ、正面及び
両面に僅かに磨痕が観察できる。検出状況は石器集中
9とそれと隣接する礫群14・15にまとまっている。

尖頭器 (54) 先端と基端を欠損するが、全体の形態
は認識できる。正面左側に槌状剥離が施され、裏面下
半分右側に原石面を残している。調整加工は裏面が平
坦で、正面の剥離は中央部まで達し稜線を作っている。
そのため横断面は凸レンズ状になっている。

b類は5点とa類と比べ点数は少ないが、その分布
範囲は広く、グループa・bから少数であるが検出さ
れている。

角錐状石器 全体で4点検出された。その内、プラ
イマリーな状況で出土したのは2点である。いずれも
グループaに属している。

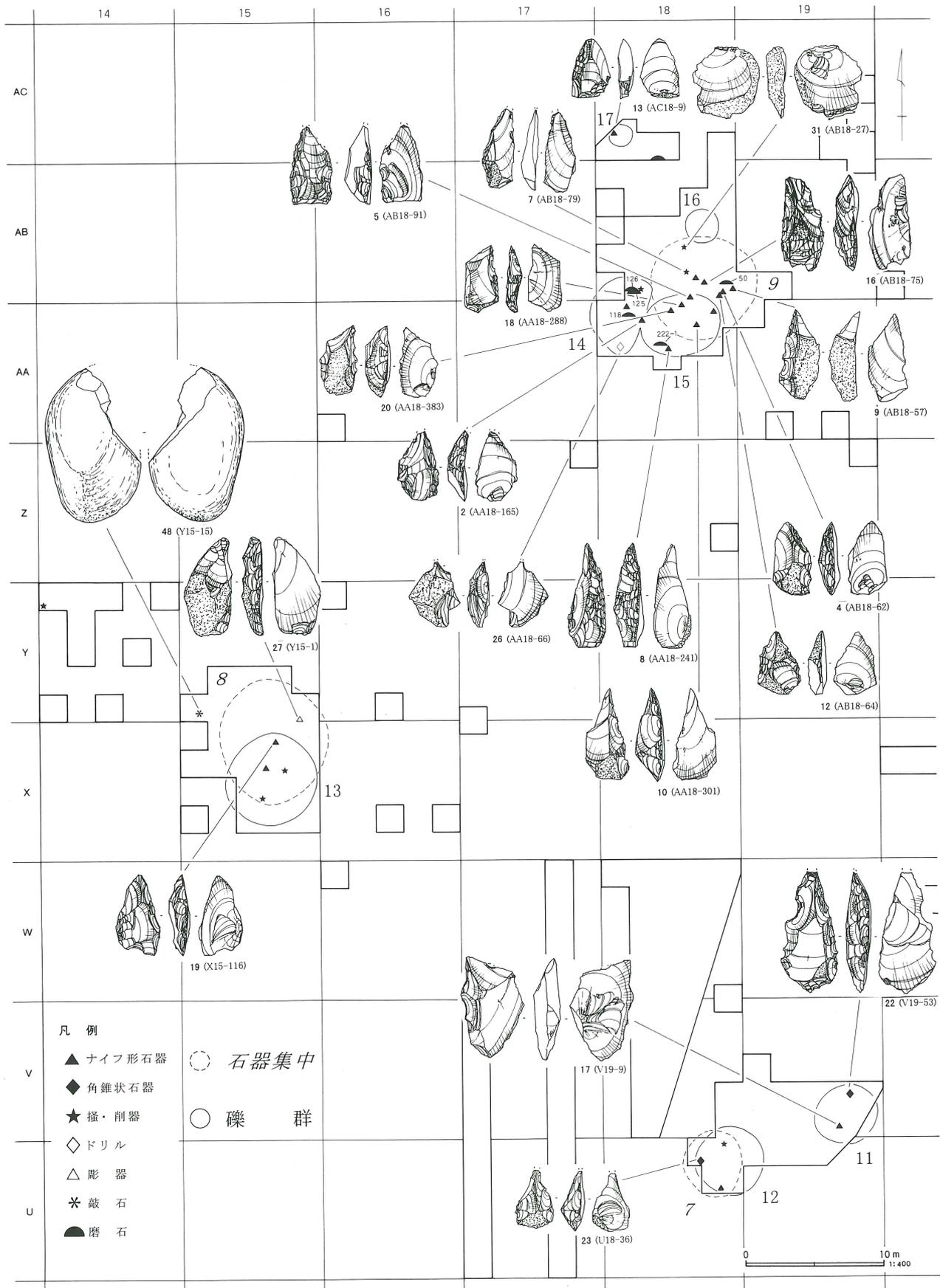
彫器 明確に彫器といえるのは1点のみであるが、
剥片Y15-7をブランクとして捉えれば2点と考えら
れる。いずれも、グループbからの検出である。

ドリル 2点出土したが、プライマリーな状況で検
出されたのはグループcの1点のみである。

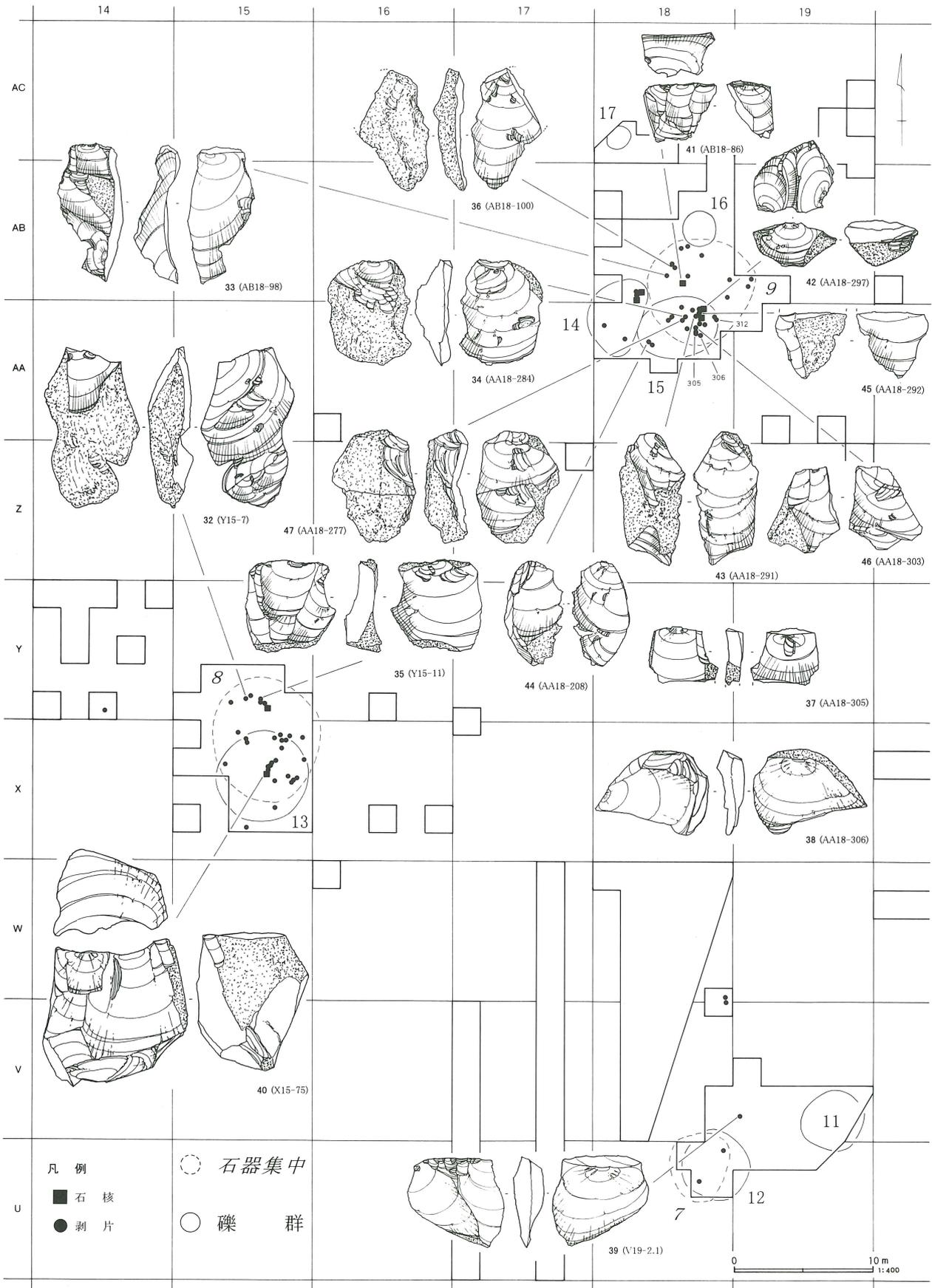
敲石 グループbの1点のみである。

磨石 6点ともグループcにまとまっている。

第20図 器種別分布図(1)



第21图 器種別分布图(2)



各器種の分布状況を検討したが、角錐状石器、彫器、敲石、磨石等が1箇所のグループのみから検出されている。それに対し、ナイフ形石器はa類がグループcに限定され、b類はグループcを主体にしながらも、

グループa・bに分布している。今後、C区の出土状況も合わせて、谷を囲む場の利用と石器分布のあり方を検討する必要がある。

6. 礫群

D区からは礫群7基が検出された。礫群は石器集中と関連性をもって、約40mの距離で3つのグループがみられる。グループaは石器集中7と分布が一部重複及び隣接して礫群11と12の2基がまとまる。グループbは石器集中8に一部分布が重複して礫群13がみられる。グループcは石器集中9と分布が一部重複及び隣接して礫群14~16と少し離れる礫群17が分布している。

礫群11 (第22図) V19-5グリッドを中心に、南北約

3.2m、東西約2.5mの楕円形に分布している。

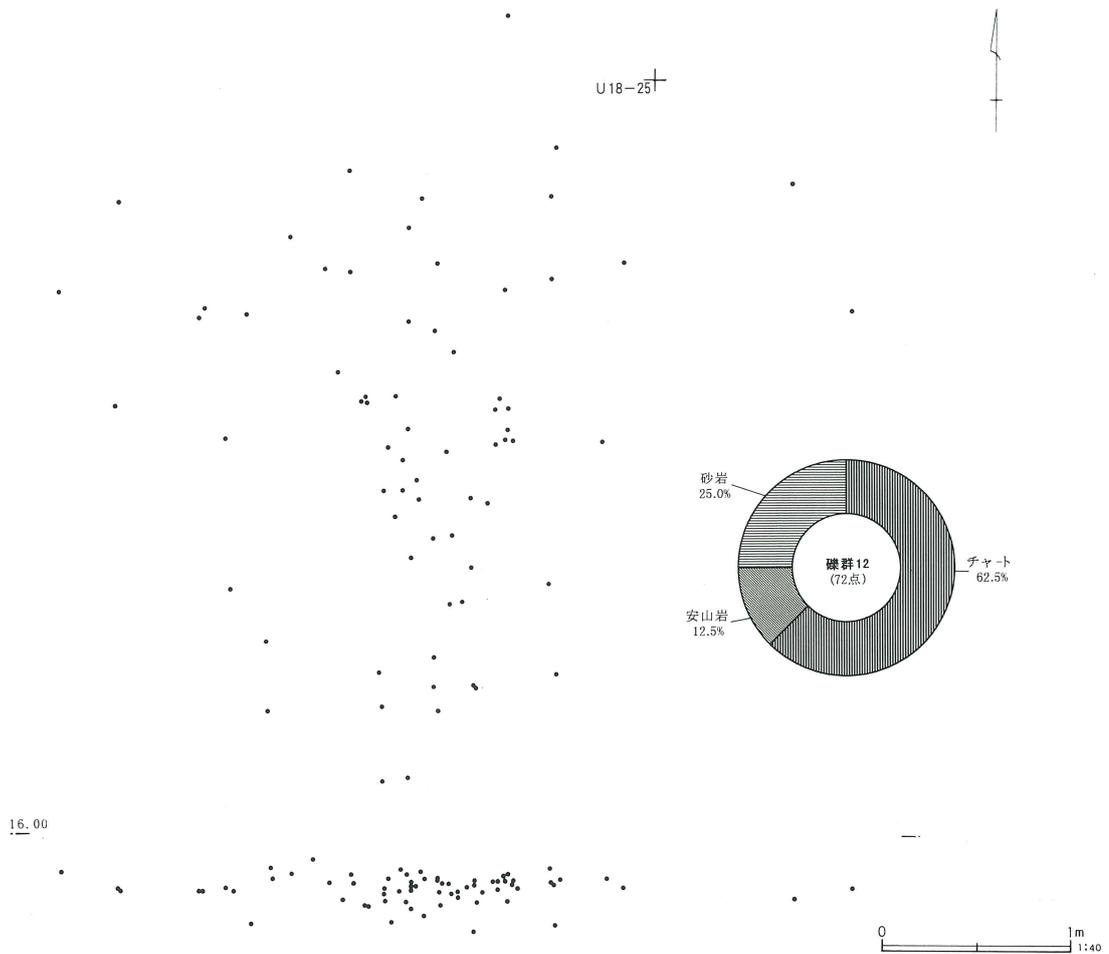
礫の総数は54点で石材は砂岩を主体にチャート、安山岩が用いられている。礫群からはナイフ形石器1点と角錐状石器1点が検出されており、石器集中7との関連性が窺える。

礫群12 (第23図) U18-25グリッドに位置し、南北約4m、東西約3mの範囲に散漫に分布しているが、東西方向に帯状に比較的まとまっている。分布は石器集中7と一部重複している。

第22図 礫群11



第23図 礫群12



礫の総数は72点でチャートを主体に砂岩、安山岩が用いられている。

礫群13 (第24図) X15-14グリッドを中心に南北約4.5m、東西約5mの広い範囲に散漫に分布している。石器集中8と一部分布範囲が重複している。

礫の総数は110点で、チャートを主体に砂岩、安山岩が用いられている。

礫群14 (第25図) AA18-22グリッドを中心に南北約4m、東西約3.5mの範囲に幾つかのまとまりをもって分布する。石器集中7とは東側に隣接している。

分布の状況をもう少し観察すると、北東部に磨石とナイフ形石器、石核等の小さなまとまりがあり、D区の磨石の多くがここから検出されている。

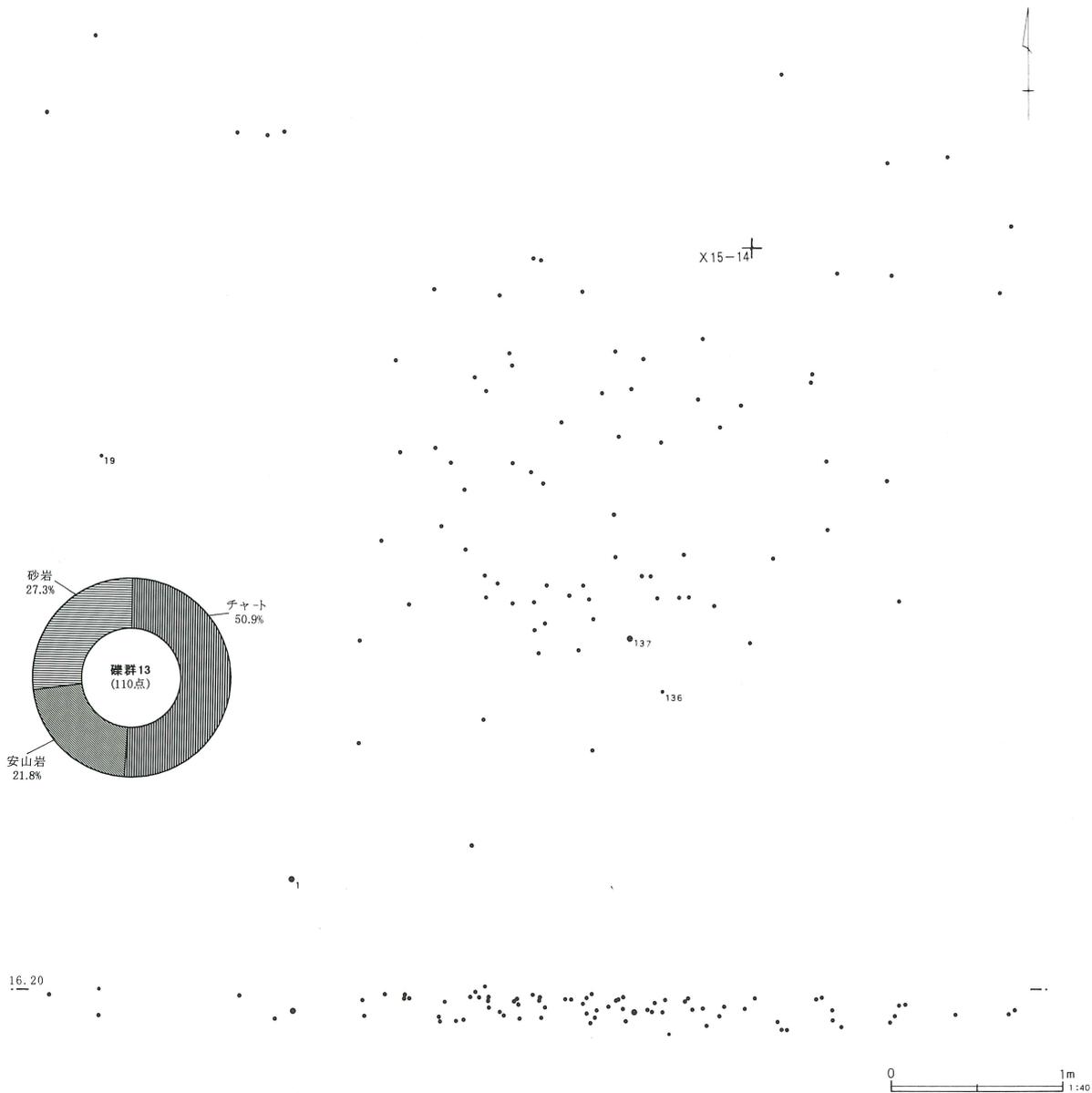
礫の総数は280点で、D区では最大規模の礫群である。石材はチャートを主体に砂岩、安山岩等複数が用

石材組成表

| | ホルンフェルス | チャート | メノウ | 安山岩 | 砂岩 | 石英 | 頁岩 | 合計 |
|------|---------|------|-----|-----|-----|----|----|-----|
| 礫群11 | | 14 | | 14 | 26 | | | 54 |
| 礫群12 | | 45 | | 9 | 18 | | | 72 |
| 礫群13 | | 56 | | 24 | 30 | | | 110 |
| 礫群14 | 4 | 162 | 1 | 26 | 82 | 4 | 1 | 280 |
| 礫群15 | | 77 | | 13 | 25 | 4 | 2 | 121 |
| 礫群16 | 1 | 26 | | 3 | 3 | | | 33 |
| 礫群17 | | 16 | | 5 | 24 | 1 | | 46 |
| 合計 | 5 | 396 | 1 | 94 | 208 | 9 | 3 | 716 |

| | ホルンフェルス | チャート | メノウ | 安山岩 | 砂岩 | 石英 | 頁岩 | 合計 |
|------|---------|------|-----|-----|----|----|----|-----|
| U19 | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| V18 | | | | 4 | 2 | | | 6 |
| V19 | | 1 | | | 2 | | | 3 |
| X15 | | 3 | | 6 | 4 | | | 13 |
| Y14 | | 4 | | | 4 | | | 8 |
| Y15 | | 5 | | | | | | 5 |
| Y17 | | | | 6 | 2 | | | 8 |
| AA18 | | 1 | | 5 | 6 | | | 12 |
| AA19 | | 2 | | | | | | 2 |
| AB18 | | 20 | | 5 | 12 | | | 37 |
| AC18 | | 1 | | 1 | 5 | | | 7 |
| AC19 | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | 0 | 38 | 0 | 28 | 38 | 0 | 0 | 104 |

第24図 礫群13



いられている。

礫群15 (第26図) AA18-18グリッドを中心に南北約3.5m、東西約5mの範囲に散漫ではあるが、幾つかの小さなまとまりをもって分布している。石器集中9とは分布が一部重複し、礫群14とは東西の位置に隣接している。東側にあるまとまりからナイフ形石器、磨石等が検出されている。礫の総数は121点で、チャートを主体に砂岩、安山岩が用いられている。

礫群16 (第26図) AB18-14グリッドを中心に南北約1.5m、東西約1.5mの狭い範囲に分布する。石器集中

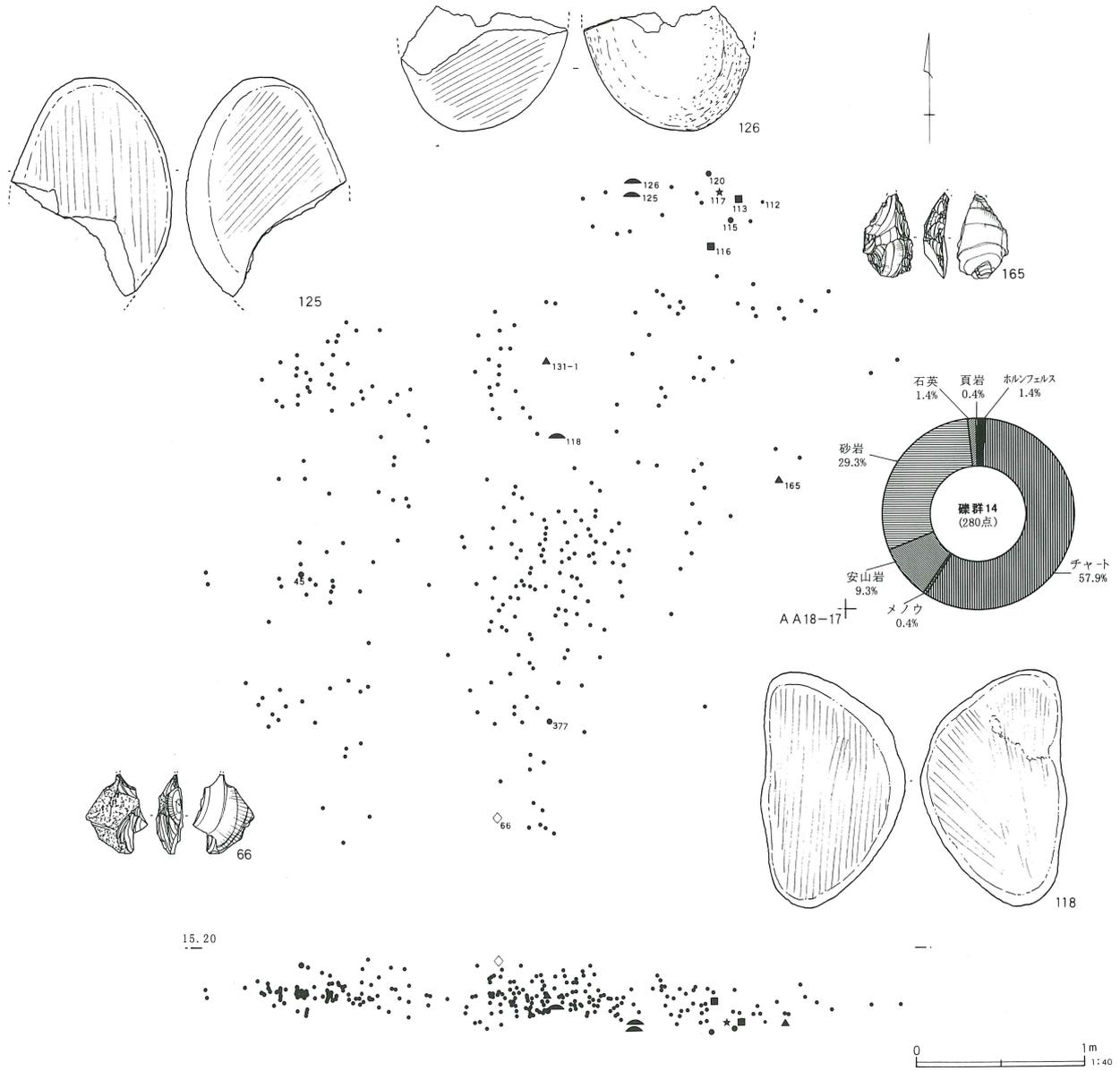
9の北側に隣接している。

礫の総数は33点と少なく、石材はチャートを主体に安山岩、砂岩が用いられている。

礫群17 (第26図) AC18-1グリッドを中心に径約0.8mの円形に密集している。石器集中9とは、北側に若干離れており、ナイフ形石器が中心部から、碎片、磨石等が周辺から出土している。

礫の総数は46点と狭い範囲の割りに多い。石材は砂岩を主体にチャート、安山岩が用いられている。

第25図 礫群14



礫の接合 (第27図) 礫の接合状況は礫群内で完結するものがほとんどで、グループを越えてまで接合するものはない。比較的接合率の高い礫群17は、狭い範囲

での接合がみられた。一方、礫群14と礫群15では礫群間を含み広い範囲での接合状況がみられる。